

W e b 配布版

転載する場合は許可が必要です。

平成 1 9 年度

「郷土日野」指導事例集

第 3 集

**日野市立教育センター
郷土教育推進研究委員会**

「郷土日野」教材の研究と活用に向け3年目の挑戦

日野市立教育センター

所 長 篠 原 昭 雄

新しい教育基本法の「教育の目標」（第2条）「伝統と文化の尊重」と郷土を愛する文言を引用するまでもなく、日野市の教育ビジョン「ひのっ子教育 21—基本と先進の教育—」に、「世界に開く視野」の育成として、“日野の地に根ざし”“開かれた郷土意識を基盤”とすることが示され、また、日野市教育委員会の基本方針にも「地域に対する誇りと愛着を育む」ことが示されているように、「郷土日野」教育の推進が求められています。それに対して、学校教育教育においても、児童・生徒が“郷土日野”の自然や風土、文化や歴史に親しみ、郷土の特色や“かけがえのなさ”を知り、郷土に対する誇りと愛着の意識を育てることが極めて重要と考えられます。

ことに近年、日野市では、郷土に関するイベントが開催されて市民の関心も高まり、また、それを契機に郷土の諸資料の開発も進み、“日野っ子”“日野人”の学習と意識の啓発が期待されるようになりました。

このようなことから、学校において「郷土日野」教育の充実を図るため、教育センターのふるさと教育係では、開設2年目に、郷土教育推進研究委員会を組織して調査研究を行いました。その成果はそれぞれ『教育センター紀要』に掲載するとともに『「郷土日野」指導事例第1集及び第2集』として刊行し、さらに昨年度はその充実を図り、その普及に努めてきました。

本年度はそれを引き継ぎ、更に調査研究の充実を図るとともにその活用を推進してきました。具体的には（1）社会科・理科・総合的学習の時間など、各教科における“郷土日野”の教材開発とそれを活かす学習指導法の研究（2）日野市の学校副読本や郷土資料の活用の仕方（3）地域の教育資源活用の観点から「郷土資料館」「新選組のふるさと歴史館」「図書館」などの学校教を育での活用及び（4）教材電子化などを含め研究成果の学校教育への普及についての研究などです。

研究にあたっては、秋山、小杉両校長先生はじめ教科担当の先生、学芸員・図書館司書など社会教育関係の委員が、学識経験の深い会田先生などの協力を得て、校務・職務多用の中、何回も研究会を開いて検討を重ねてきました。勤務時間が過ぎても熱心に研究を進められている様子に頭が下がる思いでした。中身の濃い教材開発の調査研究や授業に生きる教材・授業法の研究は、これらの方々の努力と教育センター所員の企画・推進力の成果だと思います。また、本研究の目標の一つは、これらの研究の成果が、日野の学校において授業の中で具体的に活かされてこそ大きな意義をもつと考えられます。

本研究委員会では、その活用を目指して、授業を行う先生方に具体的に役立つように、「郷土日野」教材の研究と活用に向けた3年目の挑戦として、『指導事例第3集』を刊行しました。本事例集は、研究員会を構成する先生方が、それぞれ郷土教材の開発とそれを用いた具体的な授業で実践したものを、委員会で検討し合って各学校で活用できるようにまとめたものです。是非とも各学校・教科等において活用していただくことを期待しています。

最後になりましたが、本研究を支えて下さった委員の先生方、日野市教育委員会及び学校教育関係者の方々に心からお礼申し上げます。

目 次

01	表紙
02	挨拶
03	目次
04	I. 平成19年度郷土教育推進研究委員会の取り組み ～子どもたちに伝えよう「ふるさと日野」の自然・歴史・文化～
05	1. 郷土教育推進研究の目的
	2. 今年度の具体的取り組み
	3. 研究の進め方
	(1) 小・中学校、郷土資料館、図書館等との協働による研究
	(2) 本年度の研究経過
06	II. 授業で使える郷土教材と授業の展開
	1. 収集・開発した郷土教材と授業の展開例
07	(1) 平山に伝わる昔と今
08	(2) 東光寺に伝わる昔話
09	(3) 多摩川と交通手段の移り変わり
10	(4) 学校の歴史と地域
11	(5) 日本の歴史と日野の歴史（新選組）
12	(6) 身近な地域から見た人口集中
13	(7) 工場の進出（コニカミノルタ・日野自動車）
14	(8) 戦時下の日野
15	(9) 八王子城主北条氏照と三沢十騎衆
16	2. 郷土資料館と学校教育
17	3. 図書館と学校教育
18	☆図書館申し込み
19	4. 授業で使える「郷土日野」教材一覧
20	III. 資 料 調査集計と考察
21	◎学校が保管している郷土資料の関する調査
	1. 学校及びその周辺地域の航空写真撮影の時期とそのサイズ
	2. 日野の用水や湧水、水車に関する資料
	3. 学区域の特徴となる自然・歴史・文化に関する資料
22	IV. 平成19年度郷土教育推進研究のまとめ
23	郷土教育推進委員一覧

< I >

平成 19 年度郷土教育推進研究委員会の取り組み

子どもたちに伝えよう
「ふるさと日野」の自然・歴史・文化

研究主題

「郷土意識を育む指導のあり方」
—郷土と人とのかかわりの理解を通して—

研究主題

「郷土意識を育む指導のあり方 ―郷土と人々との関わりの理解をとおして―」

1. 郷土教育推進研究の目的

“ふるさと日野”に関心と愛着をもつ「ひのっ子」の育成を願い、研究主題「郷土意識を育む指導のあり方―郷土と人々との関わりの理解をとおして―」の継続研究を行い、学校・郷土資料館・新選組のふるさと歴史館・図書館・教育センターが連携して行う研究で得られる協働研究のよさをより確かなものにする事とした。

3年目となる本年度は、日野の郷土教育がさらに市内すべての小学校・中学校に普及し、根づいていくために、「指導事例第1集・第2集」の活用も考えて『指導事例 第3集』を作成、指導者一人ひとりの手にわたるよう小・中学校の学級数分に配布する。

また、各指導者によって積極的な活用が図られるよう教材の一部を電子化することにし、ICT教育への一歩にする。

(1) 郷土教育が育む児童生徒像の育成

- 郷土の自然・歴史・文化を理解する子ども（理解）
- 郷土の特色やよさを発信できる子ども（能力）
- 郷土の一員として、自覚と誇りをもち協力する子ども（態度）
- 郷土の未来を思い描く子ども（思考）

(2) 学校教育における郷土教材の定着化

- 郷土の自然・歴史・文化の教材化の意図を明確にする
- 教材と人々とのかかわりを目的とした教材の収集・開発をす

2. 本年度の具体的取り組み

(1) “どこでも使える指導事例集”の視点から郷土教材の収集・開発を行う

- ①学区共通の郷土教材を収集・開発をする
- ②1集・2集をもとに郷土教材の少ない中学校区に焦点をあて、その地域の特色となる郷土教材を発掘し教材化する。
- ③第1集・第2集で取り上げた郷土教材の内容をさらに広げ、深める
- ④新たに再発見！日野の誇りとして伝える

(2) “だれでも使える指導事例集”という視点から“単元並びに小単元”の指導展開を工夫、関連する資料や、郷土資料館、図書館を活用する事例を提示する

(3) 郷土教材活用を根づかせる教材の電子データ化と教材一覧表を作成する

(4) 学校が保管している郷土資料に関する調査を行う

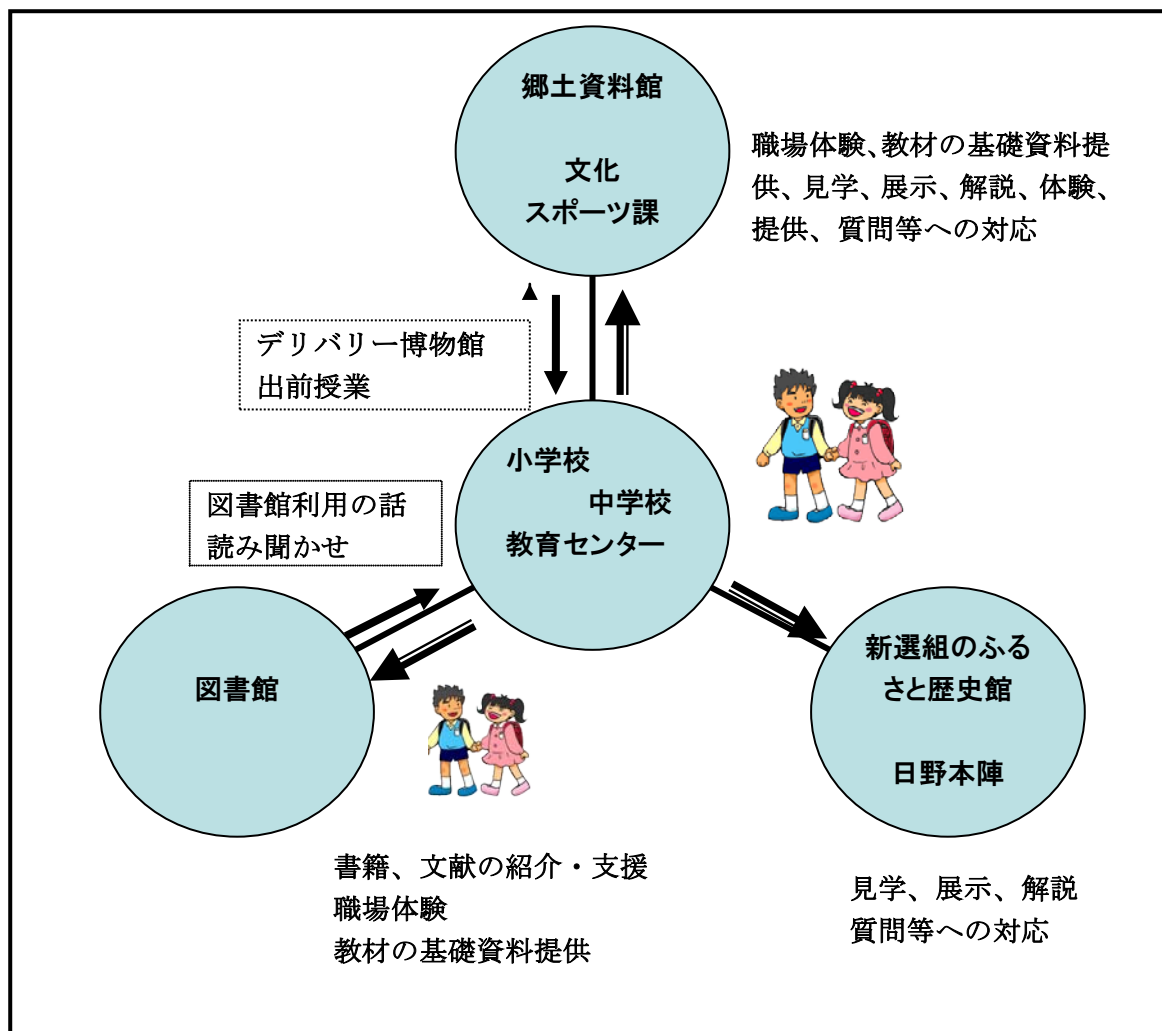
3. 研究の進め方

(1) 小・中学校、郷土資料館、図書館等との協働による研究



驚きや感動を与える本物体験

「郷土資料館」、「新選組のふるさと歴史館」、「図書館」等の活用



新選組をより深く学ぶ

土方歳三資料館、井上源三郎資料館、佐藤彦五郎新選組資料館

日野宿を学ぶ

日野宿本陣、日野宿交流館

日野の自然環境を学ぶ

かわせみ館

連携による協働学習の目的

感動や学びの楽しさ実感

多様な学習活動による学習意欲の向上

信頼と感謝の心の育成

(2) 本年度の研究経過

月	委員会開催	研 究 内 容	備 考
5月	第1回郷土教育推進研究委員会	・組織、研究日程、研究主題 ・研究内容・方法	委嘱状交付
6月	第2回郷土教育推進研究委員会	・郷土資料収集・開発の視点、 (地域、活用学年・教科等・ねらい)	
7月		・「我が地域が誇る郷土教材」となる資料の収集と開発作業に入る ・各学校が保管する郷土教材の調査依頼	各委員の中学校区を中心に収集と開発
8月	第3回郷土教育推進研究委員会	・視察とフィールドワーク（府中郷土の森博物館と周辺） ・郷土教材を活用した授業の計画案作成	8月1日（水）
9月	第4回郷土教育推進研究委員会	・中間まとめと報告会準備、指導事例第3集のプロット案提示 ・実態調査集計結果考察	中間報告骨子と報告者
10月	第5回郷土教育推進研究委員会	・授業実践 ・第3集プロット検討	中間報告会終了後開催
11月	第6回郷土教育推進研究委員会	・授業実践案検討 ・第3集プロット確認と記載要領 ・授業実践	
12月		・授業実践	
1月	第7回郷土教育推進研究委員会	・授業実践まとめと成果・課題、 ・第3集の原稿確認と検討	
2月	第8回郷土教育推進研究委員会	・発表会準備、原稿検討	発表の内容と方法 発表者
3月		・印刷業者に入稿	3月初旬

<Ⅱ>

授業で使える郷土教材と授業の展開

- 1 収集・開発した郷土教材と
授業の展開例**
- 2 郷土資料館と学校教育**
- 3 図書館と学校教育**
- 4 授業で使える「郷土日野」
教材一覧**

1. 収集・開発した郷土教材と授業の展開例

平山に伝わる昔と今

1. 教材化の意図

平山小周辺は浅川や多摩丘陵の自然に恵まれ、都立平山公園や、平山の武人・文人の墓所があり、日野市立平山小学校学校の前身である「真心学舎」のあった宗印寺がある。昭和の10年代は平山ゴルフ場や鮫陵源等、観光地として脚光をあびていたこともある。

さらに時代を遡ると、平安時代から鎌倉時代にかけては平山季重の館や、平山城（見張所）があり、現在はこの平山が地名として残り、また、駅近くに建つ記念碑によって当時の様子が語られている。

人物では武将平山季重の他に、林丈太郎、秋間為子のように明治・大正にかけて世の中の発展に尽くし、大きな功績を後世に残した人がいる。

また、平山城趾公園園内の雑木林や池には多くの動植物が見られ、子どもたちの自然を体感できる環境が整っている。

このように平山地域は、自然・歴史の宝庫といえる。そこで、こうした環境を郷土教材に取り入れ、1, 2年生では生活科、3, 4年生では社会科の地域学習、6年生では総合的な学習の時間における地域学習の中で活用することで、自分たちが暮らす身近な自然・歴史・環境・文化等に関心を持ち、自ら調べる活動等の学習から、郷土を知り郷土を愛する心を育てることができると考える。

2. 指導計画

第6学年 総合的な学習の時間 「わたしたちのまち 平山」

(1) 単元のねらい

- ・学校周辺の地域の歴史や文化財を調べることを通して、自分の住む地域を知り、郷土を大切に
する心情を育む

(2) 単元の指導計画（12時間）

	主な学習活動・学習内容	教師の働きかけ
気づく	1 「平山」のまちを見つめなおそう② ・自分の家の周りで、町に残る文化財や町の歴史などを教え合い、自分たちのまちについて関心を高める。	・学区域の地図や地域の文化財などの写真資料を提示する。
見通す	2 探検の計画を立てよう① ・平山のまちについて調べる課題をもち、課題について調べる計画や、準備について考える。	・副読本を活用し、課題解決の見通しを持てるようにする。
追究する	3 平山を探検しよう④ ・グループで協力しながら、自分たちで立てた計画に基づいて平山のまちを探検し、地域にある施設や人々、自然等とかかわりを持ち、平山について調べる。	・課題別グループを編成し、それぞれの課題にあわせ聞き取り調査、見学などを行う。
表現する	4 調べたことを伝え合おう④ ・調べたことについて伝え方を工夫してまとめ、お互いに伝え合い、平山のまちの理解を深める。	・課題にあわせ、効果的な表現方法を工夫できるようにする。 ・発表会を行い、それぞれの調べたことを交流する。

まとめ	5 これからの平山を考えよう① ・自分たちの住む平山のまちを今後どのようなまちにしていきたいか、そのために自分たちは何ができるのかを話し合う。	・自分の住む町に愛着を持ち、引き継がれてきた良さを継承し、主体的によりよい町作りに貢献しようとする態度を養う。
-----	---	---

(3) 展開例 (13 / 13)

ねらい 調べたことをもとに平山の良さをとらえ、これからの町作りに主体的に関わっていこうとする意欲を持つ。

主な学習活動と内容	指導上の留意点
1 調べたことや他のグループの発表をもとに平山のまちについて見つめ直し、平山の良さをワークシートに書く。	・発表資料等を掲示し、各グループの発表内容を振り返られるようにする。
2 自分たちのまちをどのようなまちにしていきたいかグループごとに話し合う。	・自分の住む町の良さを守る、発展させる、作り出すなど、自分から主体的に関わっていけるようなアイデアを話し合わせる。 ・他のグループに向けて提言できるよう話し合いをまとめさせる。
3 グループごとに提言を発表しそれぞれの考えを交流する。	・良いと思う考えはメモをしておく。 ・話形を示し、自分たちの考えを明確に伝えるための参考になるようにする。
4 単元を振り返り、感想と自己評価をワークシートに書く。	○調べたことをもとに平山の良さをとらえ、これからの町作りに主体的に関わっていこうとする意欲をもつことができたかを評価する。

2. 資料

・ 平山城址公園

平山城址と名は付いているが城郭建築はなかったようで、平山季重の館の見張り所（小屋）があったようである。現在は都立の自然公園として整備され四季折々に様々な植物や鳥・昆虫と出会うことができる。サクラやクヌギを中心とした雑木林は都によって管理されており里山管理の様子なども学ぶことができる。平山小の副読本「ひらやま」には、平山城址公園自然マップや浅川の野鳥マップがまとめられていて、探検・観察の時に役立っている。

・ 季重神社

平山城址公園入り口の北部に小さな祠が建てられている。古くは、日奉大明神といわれており平山季重の祖先である日奉氏を祭ったものと思われる。

平山季重は12世紀中頃に源氏の侍大将として活躍した武将で、保元・平治の乱や一ノ谷の戦いに参戦し活躍した。源氏の世になると源頼朝に認められ、平山の支配のみならず、檜原方面まで勢力を伸ばしていった。「平家物語」や「吾妻鏡」にも一ノ谷の戦いで「ひよどり越え」の作戦の先頭に立って活躍した姿が記載されている。 平山八



幡神社の氏子たちによって、平成 17 年に祠が新しく立て替えられた。

・ 平山ゴルフ場

1925 年 大正 14 年 12 ホールの本格的な山岳コースとして開場した。場所は、現在の平山宗印寺西側。東京日日新聞の後援で大正 12 年に出来た戸山ヶ原ゴルフクラブが自前のコースを持つ事になり、当初は目黒競馬場の跡地を候補としたが、借地料で折り合わず会員の川崎保氏が当時の七生村平山の杉山又吉氏と周りの各地主と相談して作り上げた。

昭和 2 年 1926 年に千葉県松戸に移転したが、惜しむ声が多く昭和 3 年に多摩カンツリー倶楽部平山コースとして再開場した。当初は 9 ホールだったが、昭和 4 年に 12 ホールに拡張し昭和 5 年クラブハウスが完成し同年社団法人組織になったが、昭和 13 年 1 月 6 日に戦争の激化により閉鎖された。

戸山ヶ原ゴルフクラブの会員には当時の大財閥である三井・三菱の重役や画家、官吏の他当時の有名ゴルファーも名を連ねていた。又、財閥の接待にも使用したらしく外国人も多く来場し昭和 11 年に浅川の対岸に鮫陵源が出来た事により短い期間では有るが家族も楽しめる一大娯楽施設が完成した。しかしながら地元の人には余り関係無く別世界の事だったようである。



・ 宗印寺

元は平山武者所季重の居城のあったところで、居館の内にあった大福寺から移した季重の墓がある。季重二十五代の子孫、松本藩士平山季良が建てた。寺は戦国時代の末期、小田原北条氏の旗下として八王子城で討死にした中山勘解由の嫡男照守が、戦後、徳川家に仕えてこの地を領して開基した。境内には、平山季重の墓や座像、平山陸稲の開発に努めた林丈太郎をたたえる碑などがある。

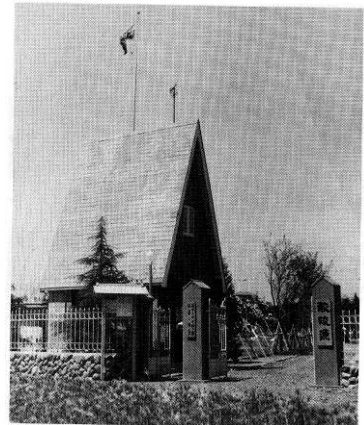
(「郷土日野」指導事例第 2 集参照)

・ 鮫陵源

滝合橋北部に広がる、平山団地の敷地にはかつて鮫陵源といわれるレジャー施設があった。昭和 11 年に鮫島亀之助氏によって創設された。遊園地と料亭と養魚場、釣堀を組み合わせた施設で、南門の赤い三角屋根がシンボルマークであった。

入園料は、大人 20 銭、子供 10 銭。園内には、ブランコ・すべりだい・プール・ウッドボールゴルフ場などの遊園地、鮎・鯉・鱒・鮒・鰻・スッポン等食用魚や花鯉、金魚等の鑑賞魚を育てていた養殖池や弁天池や釣り池があった。ガチョウ・アイガモ等を千羽も飼っていた。

京王電鉄でも、パンフレットを作ったり、入場券付き往復切符を作ったりと観光施設として力を入れていた。戦争の影響を受ける中、昭和 18 年の末に閉鎖された。



・ 七生村の食事（昭和初期）

七生村の浅川流域は豊富な浅川の水を利用して水田地帯であった。稲作技術の発達の結果収穫量も増え、養蚕地帯の繭とならんで貴重な現金収入源であった。そのため、米はできるだけ節約して使われ白米飯は、盆、暮れ、正月など晴れの日や行事にしか炊かなかった。ふだんは、水田の米の裏作の大麦を二割ほど混ぜた麦飯、あわ、ひえを混ぜた雑穀飯、大根、いもを加えた飯を季節に応じて混ぜて炊き食べていた。また、くず米を粉にして団子を作ったり、畑作の小麦を粉にしてうどん、まんじゅう、たらし焼きなどにしたりして食べていた。他にそば、いも、豆類などが栽培され様々な方法で食べたり、味噌、醤油の材料とした。

水田、養蚕用の桑栽培が主たる農業であったため野菜類は屋敷まわりで自家用の野菜を作る程度であった。野菜の少なくなる冬の終わりにはふきのとう、山ぶき、わらび、せり、のびる、たけのこなどの山菜や野草がおかずとなった。

浅川は川魚の種類も多く、投網、さお釣り、もりなど様々方法で魚を捕り食材としていた。はや、ふな、どじょう、うなぎ、川えびなどがよくとれていた。

屋敷には、柿、梅、栗などがあり、茶うけなどとされたほか、子どもたちは川の土手に生えている「いたどりの茎」や庭先の「ぐみ」や「ゆすらうめの実」、「桑の実」など自然のものを自分でとって食べていた。

- 〈参考文献〉 『鮫陵源とその時代』 日野市生活課
『ひらやま歴史マップ』 日野市生活課
『聞き書 東京の食事』 農山漁村文化協会
『聞き書 ふるさとの家庭料理』 農山漁村文化協会

東光寺に伝わる昔話

1. 教材化の意図並びに教材の概要

意思に刻まれた碑文には、その土地に生じた事象を長く歴史に残し、後の世の人々にも伝えておきたいという願いが込められている。

昔話も同様にその地域の歴史をふまえて生まれたもので、地域の文化や風土を感じ、人々の生活を思い、その歴史的背景を考えることができる郷土教材である。

地域に伝わる昔話を子どもたちが聞いたり読んだりして学ぶことは、当時の人々の思いや願い、楽しみや喜びを受け止め、自らの郷土に根ざすところの生きる力を学びとっていくものと考え。実際に地域の関係者を招いて昔話をきくといった交流の機会をつくることは、郷土に暮らす人の姿を実感し、自分と人、自分と物との関わり方や、対話する力をも育てるものと考え。

昔話の活用は、誰でもが取り組むことができ、学校と家庭と地域とを結ぶ教育、子どもと教師と保護者等の心を結ぶ教育として、その実践を進めたい。

日野にはここで取り上げるうなぎ伝説のほかにも、「はたかけの松」、「藤治権現」、「おしゃもじ様」、「とんがらし地蔵」等、その時代背景や、人々の不安・病等をやわらげて救うといった地域の人々の暮らしと深い関わりをもつ話がたくさん残されている。

(日野市史民俗編参照)

昭和 60 年日野市教育委員会作成の小学校教育課程編成資料「地域教材資料カード」には、国語の民話教材として「ウナギに救われた話」、「神明様のお告げ」、「藤治権現由来」、「上人塚のキツネ」、「金剛寺のはだか竜」が郷土への愛着心の育成をねらいとして取り上げられている。

その冒頭の挨拶にある“心豊かな住みよい社会は、そこに住む人々の「郷土愛」によって支えられていくことを想う時、青少年の時代に郷土の自然や文化伝統にふれさせてやることは誠に大切なことと思います”は 20 年過ぎた今に至るまで言われ続けてきていることのように思う。

今、地域を見渡した時、祖父母と一緒に住んでいる家庭は少なく、また、他地域からの転入者が多い現在、昔からの地域の様子は勿論のこと、今の地域の現象・残象についても知られていないことが多い。

従って、この民話の教材化を通して、子どもたちが自分たちの住んでいる地域に興味と関心をもち、郷土を知る楽しさから郷土を愛する心へと育つことを願っている。

2. 指導計画

○第 3 学年 社会科並びに総合的学習の時間

社会科 小単元名 「わたしたちの東光寺」(6 時間)

総合的学習の時間 単元名 「学区域探検」(6 時間)

☆社会科「わたしたちの東光寺」の発展学習として、総合的学習の時間の「学区域探検」を扱う。

(1) ねらい

○ 東光寺小のまわりにある「もの」の様子やなりたちに興味をもち、課題について調べることができる。

○ 東光寺小のまわりにある「もの」と人々との関わりを通して、郷土に生きる人々の願いや考えを知る。

(2) 指導計画

過程	主 な 学 習 活 動	○指導 ◇評価
気づく 2時間	東光寺小のまわりにある「もの」を見つけよう ●屋上から学校のまわりを見て、どんな「もの」が見えるか、気がついたことを話し合う ●家から学校までの道のりで、古くから残る「もの」や印象に残ったものを発表する ●東光寺小のまわりを歩き、印象に残った「もの」や疑問を発表する	○東光寺小のまわりを見ていく中で、「もの」についての簡単な紹介をし、追究意欲を高める ◇印象に残ったこと、疑問に思ったことを書き、発表することができる
調べる 4時間	東光寺小のまわりにある「もの」を調べてみよう ●課題別グループを作り、それぞれの「もの」について見学に行く ・日野宮神社 ・成就院 ・日野用水 ・船公園 ・日野駅 ・七つ塚 ・水車堀公園 ・新町交流センター ●見学で聞いた話などを課題別グループで共有しあい、自分のノートにまとめる	○同じ「もの」に興味を持った子ども同士でグループを作る ○グループ見学では、説明・案内人として地域の人に関わるようにする ○見学して聞いたことをノートにわかるようにまとめることができる
深める 4時間 本時 4/4	東光寺小のまわりにある「もの」について調べたことを発表し合おう ●課題別に調べてわかったことを発表する ・日野駅（駅の仕事と利用者） ・成就院（東光寺の由来、安産薬師） ・新町交流センター（施設の様子と利用方法） ・日野宮神社（日野の由来、ウナギ伝説、四谷） ・日野用水、水車堀公園、船公園（用水の利用、水車の利用方法、つり船、渡し舟） ・七つ塚（出土品からわかったこと）	○調べたことをもとに、それぞれが発表できるように助言する ◇自分のノートをもとに感想を入れて発表することができる
まとめる 2時間	東光寺小のまわりにある「もの」について新聞にまとめよう ●東光寺小のまわりにある「もの」について、知ったことやわかったこと等を新聞にまとめる	◇絵や写真等を活用し、工夫してまとめることができる

(3) 本時の指導（10/12）

① ねらい

- うなぎがどうして神様のお使いになったのかを知ることができる
- うなぎを食べない四谷の人々の思いや願いに寄り添うことができる

② 展 開

学習活動（予想される反応）	○指導 ◇評価
うなぎはどうして神様のお使いなの？ C 菩薩の着ている洋服がうなぎみたいだから C 昔、洪水があったときにうなぎが水を防いで四谷の人を守ってくれたから C 四谷の人々は一晩中見張っていた C 四谷は四つの家という意味。四つの家は天野、加藤、小島、宮原さん。 C うなぎは村の鎮守様の虚空像菩薩のお使いだから、決してうなぎを食べなくなった C うなぎに助けてもらって、みんなが喜んでうなぎを神様のお使いにした どうして四谷の人々は、今でもうなぎを食べないの C 嫌いな人が多いからかな C また洪水にあわないようにしたいと思うから C ずっと食べてなかったから食べようとしなくなっちゃった C うなぎにありがとうという気持ちがあるから食べないと思う、だから食べない うなぎを食べない人をどう思ったか書いてみよう ●四谷の人に対して感じたことや思ったことを書く	○洪水の話題が出た時には、実際に洪水のときにはどこまで水がきていたかを確認し、洪水被害の大きさを実感する ○四谷（四屋）という地名に関する由来を確認する（天野、加藤、小島、宮原という4つの家） ◇調べたことをもとに意欲的に話し合っているか（関心、意欲、態度） ○日本には土用丑の日とうなぎを食べることを紹介する → それでもどうして四谷の人は食べない？ ◇四谷の人々に伝えられている思いをとらえた意見がもてているか（思考、判断） ◇四谷の人の考えによりそうことができているか

（4）授業後の児童の姿

○日頃、発言・挙手の苦手な児童が、自分の生活と関わりをもっていた「うなぎ伝説」の学習で自信をもち、その後の学習にも自らの考えを発言する積極性が出てきた。子どもの「成長の芽」を引き出す良い契機になったと思う。



- 昔話の舞台となっている場所や、ものを見学して、聞いたり調べたりしたことは、学習への興味・関心を高め、頭の中だけで考えること以上に児童の情感に大きく訴えることができ、命を助けてくれた“うなぎ”を食べない人の思いに寄り添った理解ができた。
- こうした昔話を覚え、郷土日野に伝わる昔話を覚え、人に教え、語り継ぐ楽しさや、興味を持つことにも期待をしたい。

＜資料 1＞ 「うなぎを食べない四谷の人々」

参考文献 開校 20 周年記念副読本「わたしたちの東光寺」

今の日野栄町の一部を昔は四谷といいます。多摩川に沿った四谷は水に恵まれ、土地も肥え、大昔から人々が住みついでいました。

ある年、この多摩川が氾濫し、大水が出て堤防があぶなくなりました。村人は、土嚢を積んで見張っていましたが、水は増える一方で危険はいよいよつのるばかりでした。そしてついに土手に穴が開き水が漏れ始めました。村人は必死になって穴を埋めようとしましたが、もう人の力ではどうにもなくなりました。

そのとき、どこからともなくウナギの大群が泳ぎつき、その穴へぎっしり入り込んで、水量が減るまで土手を守りました。

四谷の人々はこれこそ部落の鎮守様の虚空蔵菩薩がお使いのウナギに命じて、四谷村の人々を助けてくれたのだと思いました。

それ以来、四谷の人々は決してウナギを食べないことにしたそうです。

※ウナギ伝説については、日野市史「民俗編」、日野史談会日野の歴史と文化」等も参照



＜資料 2＞四谷の阿弥陀堂

参考文献 開校 20 周年記念副読本
「わたしらちの東光寺」

栄町 1 丁目の四谷新道沿いに 4 体の石仏が置かれた立派なお堂があります。お地蔵様が 2 基と庚申等が 2 基です。この石仏はいったい、いつ、だれが、何のために作ったのでしょうか。(中略) このお堂のすぐ近くに阿弥陀堂という建物が、約 250 年前からありました。このあたりは四谷村の中心で、250 年ほど前から念仏講があったことがわかります。阿弥陀堂は四谷村の人々が念仏を唱えたりする集会所として使っているのです。このような集まりを念仏講とって、テレビや映画、

新聞もない頃の人々にとって、待ち遠しい、楽しい行事だったのです。

この阿弥陀堂は昭和 35 年に取り壊されました。そのあとに、四谷自治会館が建てられました。この自治会館も平成 4 年に壊されました。阿弥陀堂の三体の仏像は日野宮神社にうつされ、今でも念仏講は日野宮神社で続けられています。

このうちの一体がウナギ伝説と関係がある仏像で、両袖がウナギそっくりに見えます。

<資料3> 日野宮神社

参考文懸念 「日野ふるさと歳時記」日野市立図書館刊行

創建の年代は不詳である。日奉宗頼は、10世紀中頃武蔵野守に就任、都から下って土着した人物。どの孫宗忠は武蔵七党といわれた武士団のうち、西党の祖といわれる。

当社は、日奉氏が日奉宗頼・宗忠を中心に祀った神社で、日奉宮、日野宮権現等とよばれている。阿弥陀如来立像、阿弥陀如来坐像、虚空蔵菩薩立像が安置されている。

虚空蔵菩薩立像は四谷に伝わる「ウナギ伝説・ウナギを食べない四谷の人々」と深く結びついている。「日野」という名の由来は、この「日野宮」から出たものといわれる。

例祭日は9月15日。

<資料4> 「社会科」の発展学習として「総合的学習の時間」の学習内容を扱う

第3学年 社会科と総合的学習の時間の年間計画例

月	社会科年間指導計画	総合的学習の時間年間指導計画
4	1. わたしたちの日野 ○学区のまわり（6時間） ・学区域探検	○カタクリの絵葉書（2時間） ○学区域探検（6時間） 公園・建物・用水など
5	・図書館、児童館見学（3時間） ○市のようす（3時間）	○梨園見学（6時間） 摘果3時間、袋かけ3時間 ○図書館案内（1時間）

多摩川と交通手段の移り変わり

1. 教材化の意図並びに教材の概要

現在の日野市の発展は、江戸時代の日野が五街道の 1 つである甲州街道の宿駅に指定されたことと深い関係がある。宿駅が日野に置かれたのは、多摩川という大きな自然条件を抜きには考えられない。江戸幕府は政策として、多摩川を甲州から江戸へ入る軍事防衛拠点として位置づけ、架橋させず渡船で通行させた。そして、この管理を日野宿に任せていた。このように、多摩川からは鮎や砂利の採集など自然の恵みを受ける一方、北方への通行にとっては障害にもなっていた。その後、時代の移り変わりによって鉄道やバスなど新しい交通手段が出現するが、それらの利便性を活用し他地域と結び付くことによって日野の町は発展してきた。JR 多摩川鉄橋や日野橋、モノレールなどの実物を調べることを通して、郷土日野の発展の理解を深め、さらに今後についても考えさせたいと願って教材化を図った。

2. 指導計画

総合的な学習の時間 第4学年「多摩川を渡ろう」

関連教材 副読本『わたしたちの日野』(4)むかしのくらし 42 頁、50 頁

(1)ねらい

- ・ 多摩川に関心をもち、自分の設定した課題にそって調べることができる。
- ・ 先人たちの苦労や工夫を理解することができる。
- ・ 鉄道や道路・橋などが地域に果たしてきた役割について考えることができる。

(2)指導計画(32 時間扱い)

過程	主な学習活動・学習内容	教師の働きかけ(○評価)
気づく 10	多摩川を渡ってみよう ◆日野橋や立日橋を渡ってみる。 ◆多摩川を歩いて渡ってみる。 ◆多摩川を渡ってみて気づいたことや疑問に思ったことを発表し合い、交流する。	○人や自然と直接関わりながら学ぶ楽しさに気づく。 ・ 多摩川を歩いて渡ることについては、行政やNPO法人などによる事前指導や当日の協力、さらに保護者の協力も得る。また、ライフジャケットを着用するなど安全に十分に配慮する。 ・ あらかじめ「多摩川を渡る方法について知りたいこと、見学したいことなど」を聞いておく。
見通す 4	課題を決めよう ◆昔の渡しや渡船の姿を知る。 ◆多摩川鉄橋周辺を探検する。 ◆ここまでの学習を通してわかったことや、もっと知りたいことを発表し、学習課題を決める。	・ 万願寺や日野の渡しについては地図や写真、絵画のカラーコピーなどを使って紹介する。 ・ 多摩川鉄橋については地元の土を使用した日野煉瓦(実物)や文章資料(第2集参照)を活用する。 ・ 友だちの疑問点などに注目し、多摩川を渡る方法に関する学習課題を広げさせる。 ○自分の調べたいことや疑問を課題として設定できる。

追究する 10	多摩川を渡る方法について調べよう ◆学習課題別のグループに分かれ、調べ学習の計画を立てる。 ・渡船、多摩川鉄橋、日野橋、多摩都市モノレール ◆自分たちの考えた方法で多摩川を渡る方法について調べる。 ・現地に行き、実物を見て調べる。 ・資料館で調べる。 ・モノレール会社で聞き取り調査をする。 ・図書館で調べる。 ・インターネットで調べる。 ◆自分たちの調べたことをまとめ、気づいたことや疑問に思ったことから課題をもつ。 ◆課題別グループに分かれて調べ学習をする(本時) ・社会人講師などに話を聞く。	・個々の課題について確認してから、計画を立てる。 ・調査方法については、課題と児童の実態からアドバイスする場合もあるし、そのまま試行させる場合もある。いずれにしても見学などの体験活動が行えるようにする。 ○課題を解決するためにはどんな情報が必要なのか考え、人や自然と直接関わりながら進んで集めることができる。 ・児童は目に見えないことは気づかないことが多いので、学習が深まるようアドバイスする。また、課題は多少重複しても調整はしない。 ○情報収集の方法を知り、活用できる。 ・めあてを広げたり、深めたりしながら追究できるように社会人講師やT.Tを活用する。
表現する 6	川を渡る歴史を伝えよう ◆調べてきたことを伝える方法について話し合う。 ◆グループごとに活動計画を立て、役割を分担して作成し、練習する。 ・表、イラスト、図、劇、クイズ、ポスター、作文など。 ◆発表会を開こう ・各グループが多摩川を渡ることへの思いを含めてまとめたことを発表し、交流する。 ・保護者に向けて発表する。	・体験活動、聞き取り調査、見学など学習したことを振り返る。 ○集めた情報を活用し、自分たちの考えを表せるよう、工夫してまとめることができる。 ・HPや模造紙、実物投影機などを用い、効果的なプレゼンテーションが行えるようにする。 ○自分たちの調べたことや他のグループの発表を見たり聞いたりして、感想をもち、よかった点を発表できる。
ふりかえる 2	今までのまとめをしよう ・学習してきたことをふりかえり、「新聞」にまとめる。	・他のグループの発表なども取り入れて、まとめる。 ○学んだことを明らかにし、新聞にまとめることができる。

3. 本時の指導

(1) 本時のねらい

- ・自分たちの課題(渡し、多摩川鉄橋、日野橋、多摩都市モノレール)にそって調べることにより、身近な多摩川や地域の変化について関心をもち理解を深める。
- ・前時までの調べ活動(実地調査など)で解決できなかった課題を、地域で活動している

社会人講師を活用して解決する。

(2) 本時の展開

学習形態	学 習 内 容			
学年全体	1. 課題別グループごとに、今までの学習内容や今日の課題について発表し合い、課題の確認をする。			
課題別グループ	2. 課題別グループに分かれ、課題にそって調べる。			
	T1 社会人講師（資料館研究員）	T2 社会人講師（市学芸員）	T3 社会人講師（行政職員）	T4 社会人講師（会社員）
	渡しグループ	鉄橋グループ	日野橋グループ	モノレールグループ
	学習課題：昔の人々の多摩川を渡る苦労や工夫について調べる。 - 時代や季節による渡しの様子 - 雨季の苦労 - 渡船の事故 教師の働きかけ：自分たちの体験をもとに昔の人々の苦労や工夫を知り、自分なりの考えがもてるようにする。	学習課題：鉄橋を支えた日野煉瓦の様子と、甲武鉄道の開通が地域に与えた影響について調べる。 - 甲武鉄道の開通と鉄橋工事の苦労 - 日野駅の誘致運動 教師の働きかけ：鉄道の開通によって日野駅が設置され、やがて町制がしかれて日野の近代化が促されたことが理解できるよう助言する。	学習課題：日野橋を設計した増田淳の苦労や工夫について調べる。 - 増田淳の生き方と仕事 - 日野橋開通のようす - 町の変化 教師の働きかけ：四小の校歌にあるように日野橋が当時の最新技術によって設計されたことが理解できるよう助言する。	学習課題：モノレールの工夫や開通による地域の変化について調べる。 - モノレールの役目 - モノレール開通による地域の変化 教師の働きかけ：モノレールの開通によって自分たちの地域がどのように変化したのか興味関心がもてるよう支援する。
学年全体	3. グループごとに、わかったことを発表し合い、各自の学習を深める。			

資料 1. 日野宿と渡し、一里塚

◎ 日野宿

甲州道中は江戸を中心とする五街道の 1 つで、日野は慶長 10(1605)年にその宿場に指定されている。日野宿と府中宿の間には多摩川が流れ、江戸幕府にとって軍事的な面から橋は架けないで渡しで往来をした。日野宿は、街道を往来する旅人に休息する場所を提供するとともに、荷物を輸送するための人と馬(各 25、実際には各 5)を用意し、次の宿場まで継ぎ送る役を担当した。この仕事の責任者が問屋(名主が兼任)で上・下佐藤の両家が交代で務めた。名主の屋敷は大名などが宿泊する本陣(第 2 集参照)・脇本陣にも指定されていた。この道中を参勤交代で通る大名は高島藩、高遠藩、飯田藩で、日野は休憩に使うことが多かった。しかし、一般の旅人(行商、旅芸人、講中の人など)は、日常的に日野の旅籠を利用していた。

◎ 一里塚

甲州道中は、初めは現在の中央高速附近の万願寺の渡しから日野宿に入った。当時、街道には目印として一里(約 4km)ごとに土で塚が作られた。これが一里塚で、日本橋から 9 里目のものが万願寺にも残っている。直径が 7~8m で、高さ 3m の楕円形のものが道の両側に造られたが、現在は南側の 1 基だけである。かつては塚の上に榎(えのき)が植えられ、夏の暑い時期など旅人の憩いの場になっていた。



◎ 日野の渡し

貞享元(1684)年、甲州道中の整備に伴い、万願寺より上流(現在の立日橋附近)の日野の渡しを使うようになった。ここには渡船が 3 艘あり宿役人が毎日 1 人詰め、渡し場の管理と渡し賃の徴収を行っていた。特に重要であったのは、川の水量によって、渡船を止めたり、再開したりする川留・川明けを決め、道中奉行へ報告することであった。4 月~

9 月まで渡船が行われ、10 月から 3 月の渇水期は土橋が架けられた。しかし、文政 7 (1824) 年からは 1 年中渡船になった。この渡し賃は、武士や僧侶、決められた近村の人々は無料であったが、一般の通行人は支払った。(左図:馬場吉蔵「立川村十二景」立川市教育委員会 1982 年)



参考資料 : 『日野市史 通史編 2(中)近世編(1)』 1995 年

日野の渡し碑建設委員会『日野の渡し』立川観光協会 1986 年

資料 2. 甲武鉄道

◎ 甲武鉄道の開通

現在の J R 中央線は、明治 22(1889)年 8 月甲武鉄道として新宿－八王子間が開通した。それ以前から馬車鉄道として計画されていたが、蒸気鉄道が各地に作られ始めた時期に当たり、その影響を受けて計画を変更した。測量や工事はすべて日本鉄道会社や鉄道局に依頼し、用地買収は府県に委託した。その結果、東中野－立川間は 24.7km に及ぶ日本一の直線コースが出現した。明治 21 年 7 月に工事に着手したが、工事の最大の難関は多摩川や浅川に鉄橋を架けることであった。このため、立川－新宿間は明治 22 年 4 月に開通したが、4 カ月遅れの開通になった。当時、停車場(駅)は新宿、中野、境、国分寺、立川、八王子の 6 カ所で毎日 4 往復、所要時間は約 1 時間 14 分であった。運賃は上・中・下の 3 クラスに分かれていたが、かなり高価であった。なお、甲武鉄道は明治 39(1906)年に国有鉄道になる。

◎ 日野駅の開設

この鉄道の開通は宿場町であった日野にとっては、旅客や貨物を八王子や立川に奪われてしまうことから、大きな痛手になることが予想できた。そこで、甲武鉄道が開通する前から日野にも停車場を設けるよう誘致運動を行った。この停車場開設運動は豊田でも起こり、激しい競争になった。日野は明治 21 年 1 月に日野煉瓦工場を造り、多摩川鉄橋に煉瓦を供給するなど鉄道建設に貢献してきた(第 2 集参照)。この工場の支配人の土淵英が中心になって誘致運動を行った。彼らは駅の用地を 1,200 円で買い取りそれを甲武鉄道に寄付したり、年間の予想乗降客の人数を示したりした。この結果、明治 23(1890)年 1 月 6 日に日野に停車場が開設された。当日は花火が 200 本余り打ち上げられ、見世物や露店が出され多くの人々が集まって祝った。

◎ 甲武鉄道の影響

日野宿は江戸時代から甲州道中を旅する人や貨物の輸送を行って栄えてきたが、鉄道がこれに代わることになった。駅前に開店した運送会社は繁盛したが、それまで甲州道中沿いで営業していた旅館や商店の中には経営が苦しくなるものもあった。特に渡船の利益は半分以上に減り、道路などの修繕費が出せなくなったことから料金の値上げをせざるをえなくなった。なお、明治 25(1892)年度の日野駅の旅客輸送は約 2 万 1 千人、貨物の輸送量は 213 トンであった。



の輸送量は 213 トンであった。発送する貨物の主なものは米や麦、薪や氷、瓦などである。到着する貨物は糠やしめ粕(かす)などの肥料や酒、塩、砂糖、醤油、石油などである。

(写真は『企画展 鉄道の時代』から。多摩川鉄橋を渡る蒸気機関車、鉄橋の橋脚は日野煉瓦)

参考文献:『日野市史 通史 編 3 近代(1)』1987 年

『企画展 鉄道の時代』日野市ふるさと博物館 1990 年

『日野市埋蔵文化財発掘調査輯報 X』日野市教育委員会 1998 年

野村竜太郎「論説及報告 甲武鉄道」『工学会誌』110 巻 1891 年

資料 3. 日野橋

◎ 日野橋が架けられる

大正 8(1919)年、旧来の荷物積載用馬車や牛車・荷車などのほか新来の自転車・オートバイ・タクシー・バス・トラックなどの車両交通の増大に伴って道路法が施行された。これによって、それまで渡船に頼ってきた多摩川にも橋が架けられるようになった。日野橋は当初長さ約 433m、幅 4.5m の木橋として計画されたが、その後当時の最新技術である鉄筋コンクリートに変更された。鉄の板を I 字形に組み立てて桁にするプレート・ガーダーという形式で作られ、橋の長さは約 365m、幅 7.3m で総工費は 373,300 円、大正 15 年 8 月に竣工した。渡船場の約 450m 下流に設置されたことから、甲州街道の位置も多少変更した。この開通式には、真夏の炎天下にもかかわらず、約 1 万人余りの人で賑わった。

◎ 日野橋を設計した増田淳(児童向け文章資料)

日野第四小学校の校歌は、童謡の「たき火」で有名な巽聖歌(たつみ せいか)が作詞したものです。その 2 番に「文化の誇り 日野橋も 科学の日野の 夢あらた」と歌われています。この日野橋は増田淳(1883－1947 年)によって設計され、日本の大正時代の鉄の桁(けた)の橋としては、国道 246 号の二子橋、兵庫県の加古川橋とともにベスト 3 の 1 つになっています。

日本は、明治時代の初め多くの外国人を招いて新しい技術を取り入れました。例えば、製糸場や製鉄所などを作り外国の新しい機械を入れ、その操作を外国から学びました。新しい橋の作り方も、同じように外国の技師を招いて学びました。彼らから教わった人々は、外国のやり方をそのまま取り入れたのではなく日本に合った方法に変えて橋を作り、さらに学んだことを大学などで教えました。日野橋を作った増田淳は、この人たちから橋の作り方を教わりました。大学卒業後は、アメリカで橋の設計の会社に 15 年間勤め、約 30 の橋の設計をするとともに新しい鉄の橋の作り方を学びました。この技術を使って日野橋を作りました。増田淳が帰国した翌年の大正 12 年には関東大震災がおこり、東京ではたくさんの橋が壊れました。増田淳は、仲間の技術者と一緒にじょうぶな橋をたくさん設計しました。例えば、隅田川の千住大橋や白髭橋の設計です。この仕事が終わった頃に日野橋を設計したのです。その後も日本の国ばかりでなく外国もふくめ、桁橋やアーチ橋、つり橋などいろいろな形式の橋を 20 年間で約 80 も設計し、「橋設計の天才」と呼ばれています。



増田 淳

(土木学会土木図書館蔵)

◎ 日野町への影響

日野橋ができて、日野町は北方との交通が便利になった。ちょうど大正時代の末から昭和の初めにかけて、立川、拝島、小金井などでバス会社が開業し、その路線は急激に増加した。昭和 13(1938)年には立川－高幡間を運行していた高幡乗合バスが京王バスに買収されることから、比較的早い時期から日野橋を利用したバスが運行されたようである。

参考文献：『多摩のあゆみ』123 号 たましん地域文化財団 2006 年

『日野市史 通史編 4 近代(2)現代』1998 年

独立行政法人土木研究所の URL などに増田淳の業績などが掲載。

資料 4. 多摩都市モノレール

◎ 目的と経緯

東京都西部に位置する多摩地区の大量輸送機関(主に鉄道)は、都心部を中心に放射線状に伸びた路線が大きく発達してきた。しかし、南北方向の路線は少なく、主な交通手段はバスや自動車に依存してきた。そこで、都心部に集中してきた業務機能を多摩地区の各都市の連携を強化することによって、多心型の都市構造への転換を目指すことにした。この一環として、南北に移動できる公共交通機関として多摩都市モノレールを整備することにした。昭和 57(1982)年、東京都長期計画の中に位置づけられ、平成 2(1990)年 12 月に工事に着手した。施工に関しては、東京都がモノレールの駅、桁、支柱などの構造物の建設を行った。また、多摩都市モノレール株式会社(東京都や沿線各市、民間企業の出資による第 3 セクター)が運営基地、車両、通信信号施設などの建設とモノレールの運行や経営をしている。平成 10(1998)年 11 月に立川北～上北台まで開業し、平成 12(2000)年 1 月に多摩センターから立川北までを開業した。延長約 16 km で 19 駅ある。

◎ 構造と工夫

モノレールは、1 本のレールの上を走る鉄道で、道路の分離帯上など比較的狭い場所でも設置できる。多摩都市モノレールの場合も、多くは道路上に設置されていることから曲がりくねった軌道になっている。車体は全アルミニウム合金製で軽量化を図り、台車まわりには防音カバーをつけたゴムタイヤで走行するので騒音は少ない。また、跨座式(レールにまたがって走行するタイプ)で 4 両固定編成、この定員は 415 人である。コンクリートの桁の幅は約 85 cm、ゴムタイヤは 1 軸 2 個で、1 車両に 4 軸付いている。1 両の定員乗車時の重さは約 30t、それを 8 個のタイヤで支えている。このタイヤは燃えない窒素ガスが入っているチューブレスタイヤで、パンク検知装置やパンク時の補助車輪も設けられている。最高時速は約 60 km、上北台と多摩センター間を約 36 分、有人ワンマンで運行している。

駅は高架構造になっており、ホームはモノレールの 1 両の長さなが約 15m あることから長さ 66m、幅 4m を標準としている。駅のホームは乗降客の安全を図るため、柵とホームドア(可動式安全柵)が設置されている。このホームドアは車両のドアに合わせて自動開閉する。また、スロープ版が設置されていることから車椅子やベビーカーもスムーズに乗降できる。



から長さ 66m、幅 4m を標準としている。駅のホームは乗降客の安全を図るため、柵とホームドア(可動式安全柵)が設置されている。このホームドアは車両のドアに合わせて自動開閉する。また、スロープ版が設置されていることから車椅子やベビーカーもスムーズに乗降できる。

(立日橋を渡るモノレール)

参考文献：『多摩都市モノレールのあらし』多摩都市モノレール(株) 1995 年
『土木施行』38 巻 5 号、40 巻 3 号
『知ってる!?多摩モノレール』多摩都市モノレール会社(児童向き)

資料 5. 写真資料



日野の渡し（大正 8 年 日野名勝絵ハガキ）



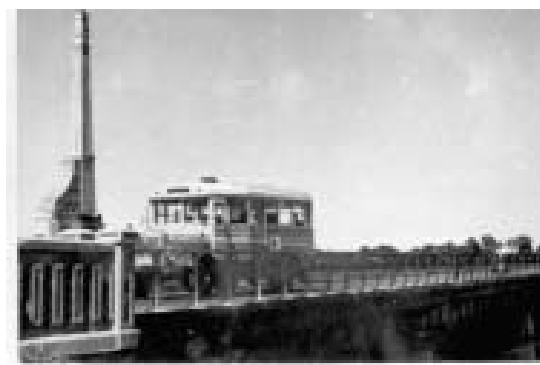
日野橋開通式（大正 15 年 8 月 25 日）



日野の渡しより日野橋を望む（昭和初期）



日野橋（昭和 12 年 6 月）



日野橋（昭和 25 年頃）

学校の歴史と地域

1. 教材化の意図並びに教材の概要

学校は、時代の変化に対応しながら、地域に根付き、地域の人々と共に歩んできた。国の施策や地域の人々の願いと深いつながりを持ちながら、学校も名称や姿を変え生きてきている。日野第二小学校もそんな学校の一つである。（「郷土日野」指導事例の第一集 P 39～44 参照）

日野第二小学校は、明治 7 年に山口平太夫宅の長屋を借りて「豊田学校」を開設したことに始まる。（正式には、「第一大学区第一中学区第四十八番小学豊田学校」という。）この「豊田」という名称は、今でも校歌に残っている。江戸時代、今の二小学区（豊田村）には寺子屋が二つあったが、明治 5 年に政府から出された「学制」を受けて、地域の人々が寺子屋を一つにまとめて「豊田学校」を作った。しかも、この時「豊田学校」は、明治 4 年 7 月の廃藩置県により神奈川県に属していた。現在の名称「日野市立日野第二小学校」になったのは、昭和 38 年のことである。

この間、日本という国が大きな変化を遂げてきたのと同じように、二小の学区域でも地域の合併や農業・産業の変化など、様々な変化が起こってきた。学校も、日本の変革と呼応しながら時代を生きてきた。加えて、豊田地域は、現在も区画整理が活発に行われ、日々その姿を変えている。

このように、学校の歴史を明治維新以降の国の動きと合わせて取り上げれば、歴史を身近に感じより深く理解することができるだろう。また、学区域の変遷にも気づくことができる。さらに、6 年生の総合的な学習の時間に、地域を調べる新しい視点を発見することも期待できる。

子どもたちは、二小の歴史を糸口に、自分が生活している「豊田」地域の歴史に意識を向け、改めて郷土に自分なりの考えや愛着を持つことができると考え、本単元を設定した。

2. 指導計画

【扱う単元】第 6 学年 総合的な学習の時間「発見！地域の宝」（環境）

【関連単元】第 6 学年 社会科「明治維新をつくりあげた人々」東京書籍（上）
P 84～85 新しい国を作る 一学校制度一

（1）単元のねらい

【課題発見力】

- ・日本の新しい国づくりについて、自分が通う学校のルーツと合わせて学習することで、史実を身近に感じより深く理解することができる。
- ・学校の歴史を糸口に、学校と地域が共に歩んでいる様子に関心を持ち、自分なりに追及したい課題を見つけることができる。

【表現力】

- ・相手の立場を考えて聞き取りをしたり、心を通わせながら交流したりする。
また、相手に分かりやすいように工夫して表現や発表を行う。

【かかわる力・生活に生かす力】

- ・学校の設置や維持に尽力する人たちの存在に気づき、共感的にとらえる中で、母校や地域を誇りに思い大切にする態度を育てる。
- ・地域のために自分ができることを考え、行動することができる。

（2）単元の指導計画（全 14 時間扱い）

①学校の校章と校歌を調べ、自分が通っている学校にも歴史があることを知る。

耕地整理の碑を中心にした話を聞き、豊田地域の変化に興味を持つ。

②課題を決め、地域を調べる。

③調べたことをまとめ、発表する。

個人のまとめとして、新聞を作る。

(3) 単元の展開例 *学習の際は、日本の歴史を意識させながら進めるとよい。

過程	主な学習活動・学習内容（郷土教材）	留意点
一 課題を発見する ① ② ③	校章・校歌を見てみよう（→指導事例第1集P46～47参照） ◆「校章」のデザインを想起しながら各自で書く。 ◆「校章」の由来を想像する。知る。 ◆校歌の歌詞を、全文、各自で書く。 ◆校歌の歌詞から、次の事項を見つける。 〈学校の地域性・学校の誇り・児童への期待〉 ◆「校章」「校歌」を調べてみて、学校や地域について感じたことを書く。 （校章、校歌）	○校章のデザインに込められた願いに触れて話し合わせる。 ○校歌の歌詞に込められた願いや思いに注目させる。
	学校のルーツを探ろう ◆校歌にあった「豊田小学校」という名称がいつ生まれたのかを、年表を使って調べる。 （学校史の年表） ◆年表を見て、その他に気づいたことを発表する。 ◆当時の賞状・卒業証書や、戦時中の公文書、写真資料を見て、事実を確認したり当時を想像させる。 ◆学校のルーツを知って感じたことを書く。	○学校の名前がたくさん変わっていること、豊田地区が神奈川県に属していたことなどに気づかせる。
	豊田地域の昔の話を聞こう（→この項、資料欄の展開例参照） ◆学校周辺の写真を集め、建物や地域の様子を確認する。 ◆学校や地域の昔のことをよく知る地域の方に話を聞く。 ◆写真や、講師の方の話から、調べてみたいと思ったことを書き出す。 （写真、地域の方の参加）	○写真の景色をヒントに時代ごとに並べ替えたりしながら、現在までの学校や地域の変化を探る。
二 追究する ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧	豊田地域を調べよう ◆テーマごとに小グループを組み、調べる計画を立てる。 課題設定の視点 学校名の変化、校舎の変化、地域の変化、祭りや言い伝え、子どもの遊び、土地の変化、人口の変化、農業の変化…等 予想されるグループ例 豊田の農業・豊田の果物・豊田の伝説・豊田の神社仏閣 ◆自分たちの考えた方法で、二小や豊田地域のことについて調べる。資料を集める。 （周年誌、学校要覧、図書資料、写真や地図、社会人講師、インタビュー、インターネット…等）	○前時までに、学校や周辺地域の様々なものに注目させ、現在と何がどうして違うのかを調べるように促す。 ○一つのことを、様々な方法で色々な角度から調べさせることによって、全てが時代の流れの中でつながっていることに気づかせたい。 ○インタビューをする際は相の都合を考えて聞き取りする。
三 表現する ⑨ ⑩ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭	まとめよう ◆調べたことを伝える方法について話し合う。 ◆グループごとにまとめ方の計画を立てる。 ◆調べたこと、発見したこと、自分たちの考えをまとめる。 ◆報告会に向け、発表の練習をする。	○相手に分かりやすいように工夫してまとめ、発表を行う。 （年表作り・イラスト集・劇・クイズ・作文・紙芝居・パワーポイント…等の形が考えられる。）
	二小の歴史や豊田地域のよさを発表しよう ◆保護者に向け報告会を開く。	
	豊田の未来を想像しよう ◆各自で「二小っこ新聞」を書く。 ・二小や豊田地域に関する過去と現在の事実や自分の考えまとめる。 ・学校や豊田地域の未来について図や文を想像して書く。	○学校や地域を調べる中で抱いた気持ちや、発見した問題点を未来への展望として自由に表現させるなどして、地域に積極的に関わらせていく。

3. 本時の指導【①課題を発見しよう 展開例】

豊田地域の昔の話を聞こう（3／14）

過程	主な学習活動	資料
導入	○耕地整理記念碑の写真を見て、どこにあり、何の目的でつくられたものか、話し合う。	〔耕地整理記念碑〕 
展開	○耕地整理記念碑の碑文を読む。 ○文を読んで気づいたことを話し合う。 ○整理前の豊田地区と整理後の豊田地区の様子の変化や、耕地整理をするための苦勞について、地域の方から話を聞く。 （資金・人々の協力・当時の苦勞など） ○もっと聞きたいこと、疑問に思ったことなどを質問する。	○耕地整理記念碑 妙訳（資料参照） ○耕地整理前後の地域や学校周辺の写真
まとめ	○耕地整理が完了した当時の人々の気持ちを話し合う。 ○学習したことについて感想を書く。	

<資料1>

【耕地整理記念碑 書き下し文】

耕地整理記念之碑 東京府知事従四位勲三棟法學博士 大井友一篆隷 明治四十一年一月戊辰詔書之旨を奉じて、南多摩郡日野大字豊田及び川辺堀之内有志胥謀り而、耕地整理組合を組織す。是れ南多摩郡耕地整理組合と称す。四十三年六月に起工し、大正二年三月にて竣る。其の費やす所実に三万円也。田圃及び間地合わせて六十二町九段余歩を得る。之を旧地に比較するに、六町二段余り之増歩と爲る。而して本地の田畝之区画則ち犬牙を以て錯雜する。地盤亦た高低を極め、甚だ容易に施工すること難し。又当に平準敷沢に於いて、荊棘を芟除し、土工之勞更に多く加わる。旃に加えて、水害亦た荐りに臻る。其の艱難拳勝げて言うべからず也。而して今其の整理之形跡、井然として、基格の如し。地味未熟と雖も、收穫増加に至る。蓋し後年之富殖逆じめ知るべし。顧みるに耕地の整理は、農事改良之基本にして、田園不朽之盛舉と爲る。廼の起因、組合に於ける團結の力と雖も、亦役員及び有志の組合に於ける竭力の勞効に外ならず。乃ち碑を立て事績之梗概を勒し、以て記念と爲す。 大正四年十月 東京府理事官従六位勲六等 久保義三郎 撰文 興膳駛郎 書	
---	--

【校章】



終戦後の昭和 21 年、初代校長・小山茂平氏のデザインにより、稲穂を原型にした校章ができた。この稲穂は、大正 13 年に結成され熱心に校外活動をした「豊田少年女子団」の団旗にも用いられている二小伝統のデザインである。豊かな田園、暑い人情のこの地を愛し、時代が変わってもその伝統が長く続くようにとの願いを感じるデザインだが、校章制定当時の記録が残っていない。なお、小山氏は校歌制定あたっても尽力した。

【校歌】

希望の光		
高麗 弥助 曲 詞		
鈴木 猛		
一、鳥が呼ぶ		
朝の梢に声高く		
みな羽ばたいて新しい		
希望の光ランランと		
空に輝けわれらが母校		
ああ豊田豊田小学校		
二、水が呼ぶ		
多摩の流れに遠く		
富士もそびえてたくましい		
心の芽生えランランと		
空に伸び行けわれらが母校		
ああ豊田豊田小学校		
三、友が呼ぶ		
学びの庭に音高く		
揃う足並み育てよう		
民主の国をランランと		
空に陽も照るわれらが母校		
ああ豊田豊田小学校		

〈作詞者 高麗弥助の言葉 前日野小学校教諭〉

「豊田という地名が語っているように、豊田には広い田んぼがあって、多摩地区としては、いの一
番に耕地整理をやったのけたすばらしい地域である。(…中略…) 中央線が堀之内から豊田へ抜けて通
るようになりそうだったが、当時の豊田の人々が美しい田んぼをふみつぶされては困るからがんばっ
て、設計変更になった。(…中略…) 私が、校歌を作詞させていただいたのは、小山茂平校長の時代だ
ったと思う。私のつたない詩が、いく分なりとも皆さんの心の支えとなり得たとしたらこんなに嬉しい
ことはない。」

ありがとう、豊田の水よ、心豊かな豊田の人達よ。

〈作曲者 鈴木 猛 の言葉 前八王子市小宮小学校教諭〉

「今はもうたくさん家が立ち並ぶ、にぎやかな日野になってしまったけれど、当時は豊田の名の
示すごとく、青い田が一面に広がる、それはそれはすてきな所でした。学校はもちろん木造でしたが、
当時としてはモダンな建築で・・・戦後のことで、暗い混乱期からようやく立ち上がった日本。豊田
小学校の皆さんが、たくましく希望を持ってのびてもらいたいと願う気持ちで曲をつけました。」

(全文は、日野第二小学校 100 周年記念誌 P 95～96)

【記念誌】

- ・ 開校 100 周年記念誌「学校百年の歩み」 教育年表 P 146～159
- ・ 開校 120 周年記念誌「120 年の歩み」 年表 P 70～74
- ・ 開校 130 周年記念誌 P 6～7 (寺子屋時代からの写真あり P 8～9)

【学校の名称の変遷年表（略式）】

活用する際は、日本の歴史を並列して載せてもよいし、資料集などを使って児童に記入させてもよい。

年号	二小の名称・学区域の出来事	日本の出来事
明治元	この頃学区内にあった寺子屋は、豊田村の善祥生寺寺子屋と堀之内村の延命寺寺子屋の二つ	
4	豊田村が、廃藩置県で神奈川県に編入される	
5		学制公布
7	<u>「豊田学校」創立 山口平太夫氏宅の長屋が校舎</u>	
8		小学校令（満6歳～14歳）
9		廃刀令、日曜は休日・土曜は半休
11	豊田村が、神奈川県南多摩郡に編入される	学制
12	善生寺敷地内に豊田小学校新築する	廃止
16	神奈川県武蔵国南多摩郡豊田村となる	天気予報が開始
19		小学校令 尋常4年を義務教育
20		東京電燈会社が初めて電気燈に点火した。
21		
22	神奈川県武蔵国南多摩郡桑田村豊田となる <u>「桑田村立尋常豊田小学校」となる</u>	市町村制公布。国歌「君が代」と制定
23		教育勅語発布
26	神奈川県より三多摩地区は東京府に編入され、東京府南多摩郡日野町豊田となる。日野宿は日野町に	日清戦争
34	<u>東京府南多摩郡日野町豊田尋常小学校となる</u>	
36	桑田村は日野町と合併、豊田駅開通	
40		小学校令が改正され、国定教科書制度確立
41	<u>「日野町立日野小学校豊田分教場」となる</u>	小学校令改正、尋常科6年が義務教育
43	豊田堀之内区水田の耕地整理始まる	
大正2	耕地整理終わる	
3		
7	学区内に電灯ともる	
8	日野郵便局電信開通する	第一次世界大戦
10	日野に電話開通する	
昭和3	日野尋常高等小学校豊田分教場において、義務教育6年まで授業を始める	関東大震災
12		中央線電車運転
15	本校校舎新築工事を始める	満州事変
16	<u>国民学校令「東京府南多摩郡国民学校豊田分校」</u>	日中戦争
17	現在の場所に新校舎建築。（木造平屋建て6教室）	
18	東京府より東京都に改称する。学校も <u>「東京都南多摩郡日野国民学校豊田分校」</u> になる。	太平洋戦争
19	新築中の校舎、中島飛行機会社に充当される。	
20	豊田・堀之内の水田に爆弾投下される。空襲もあり。	
21	<u>「南多摩郡豊田国民学校」として独立</u>	原爆投下、ポツダム宣言を受け日本は無条件降伏。
22	味噌汁給食始まる	

23	日野警察署できる	
24	豊田小学校 P T A 結成、校歌できる	新学制により、小学校発足。
25	給食調理室を建築	教育勅語が失効する。
27	二階建て校舎を新築（8 教室）	
28		
30	<u>「日野町立日野第二小学校」と校名を変更する</u>	
31	創立 1 0 周年を記念して、P T A 主体でプール建設	N H K テレビ放送開始
33	始まる。	
35		
38	日野市市制を施き日野市となる	東京タワーが完成する。
	<u>「日野市立日野第二小学校」と校名を変更</u>	カラーテレビ放送開始する。
	一番橋できる	東京オリンピック
42	独立 2 0 周年を記念し校庭に遊具ができる	
44	多摩地区最初の防音校舎完成	
46	体育館できる、全教室にテレビが入る	
49	開校百年を祝い「開校百年のあゆみ」を作る	
56	新しいプールができる	
58	クリーン作戦始まる	
59	開校百十周年を祝う	

【二小と周辺の景色の変化】



校舎に使われた山口平太夫氏の長屋門



校舎に使われた善生寺本堂(明治7年頃)



豊田分教場

善生寺本堂西側に明治12年に建てられ昭和27年の新校舎ができるまで使われました(写真は昭和17年頃)



現在地へ新築(昭和17年)



2階建て8教室(昭和27年)



2階建て6教室増築(昭和31年)



新防音校舎完成(昭和44年)



開校110周年(昭和59年)



開校120周年(平成6年)

<資料2>

【課題追究に活用できる郷土資料】

善生寺

日蓮宗。大久山と号し、本尊は十界勧請の曼陀羅である。寺地は、豊田の旧家山口平左衛門が寺建立の際、寄進したといわれている。山口平太夫の長屋で生まれた豊田学校は、入学する子どもの増加により、善生寺の本尊に移った。明治12年2月、豊田村・川辺堀之内村・上田村の人々が積み立てたお金(総額715円)によって、本尊西側に木造平屋建てで教室二つと職員室の新校舎ができた。(東豊田2-26-3)



若宮神社



祭神は、応神天皇・仁徳天皇・猿田彦命・大山咋命で、創祀の年代は不詳である。棟札に1652年(慶安5)旗本の久保三郎が建立した由が記されているが、これよりはるかに古いものと推測されている。豊田村の鎮守として崇敬されている。9月には、子どもたちの相撲大会が開かれている。

(東豊田2-32-

5)

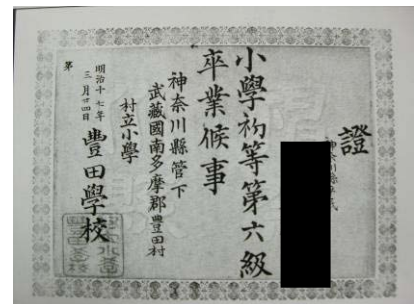
一番橋の工事①



一番橋の工事②昭和38年完成



豊田学校当時の卒業証書



日本の歴史と日野の歴史（新選組）

1. 教材化の意図並びに教材の概要

6年生の歴史の学習は、我が国の歴史上の主な事象について、関わりの深い人物の働きや代表的な文化遺産を中心にして歴史を学ぶが、身近な郷土に残る人物や、文化財に関する資料を我が国の歴史の中に位置づけ活用していくことは、郷土教材の収集や教材づくり等を考えると難しいものがある。

「日本の歴史」がどこか遠くのことに感じ、身近に考えられない児童がいるのは、このためではないかと考える。

そこで、日本の歴史年表と、日野出身の新選組の年表と、日野の自由民権家の年表の3つを用意し、読み取り・比べ・考える学習を通して、自分の生活している郷土の歴史や先人の働きが、「日本の歴史」に影響を受け、逆に影響を与えていたことを感じ取らせ、郷土に愛着を感じてほしいという願いから「新選組のふるさと日野」の新選組と、日野の自由民権家について教材化を図ることにした。

2. 指導計画

○第6学年 社会科

単元「明治維新をつくりあげた人々」

（1）単元のねらい

- ・我が国が欧米の文化を取り入れつつ、廃藩置県や四民平等等の諸改革を行い、近代化を進めたことに理解できるようにするとともに、我が国の近代化に貢献した先人の努力について深く考える態度を育成する。
- ・年表、写真、文章資料、関係図、副読本「ひのっ子新選組探検隊」などの資料を有効に活用し、明治維新をつくりあげてきた人々の業績が地域の発展や我が国の発展に果たした役割について考える力を育む。
- ・郷土に生きた人物の様子を学ぶことで、自分たちの地域と日本の歴史的事象とが深いつながりのあったことを理解する。

（2）指導計画（10時間）

時	おもな学習活動・学習内容	留意点
1	①2枚の絵を比べてみよう 教科書に掲載されている2枚の絵を比較しながら読み取りこの間に社会にどのような変化が起こったのかを予想して、本小単元の学習問題をつくる。	☆2枚の絵に描かれた街並みや人々の装いなどの違いなどから、20年ほどの間の急激な変化に気づかせる。
1	②若い武士たちが幕府をたおす 若い武士たちが、そのような世の中をつくりあげようとしたのかを考える	☆大久保、西郷、木戸の3人に着目させ、新しい世の中をつくりあげた人々の働きに関心をもてるようにする。
1	③新選組 新選組・土方歳三の年表を作ることにより日野出身者である若者が歴史に影響を及ぼしたことに気づかせ、事実を知ることにより、興味・関心を持って地域を考える。	☆官軍・賊軍という視点ではなく、日野出身の歴史に影響を及ぼした人物ということで日野っ子探検隊を使い調べられるようにする。
1	④新しい国をつくる 明治政府の諸改革について調べ、改革の目的をとらえる。	☆富国強兵の国づくりの問題点についても話し合わせ、次時以降の学習につなげる。

1	⑤人々のくらしや考え方が分かる 文明開化に関する資料を調べ、明治になって人々のくらしの中にあらわれた変化をとらえる。	☆文明開花の様子について調べるとともに現在の自分たちの生活や文化への影響にも目を向けさせる。
1	⑥自由民権運動が広がる 明治政府の改革に対する社会の動きを調べ、自由民権運動の広がり、日野における自由民権運動について、分かったことや考えたことをノートにまとめる。	☆明治政府の改革に対する国民の反対の声が、自由民権運動として広がっていったことを押さえる。 ☆日野における自由民権家と新選組との関係や、現代とのつながりを押さえる。
1	⑦国会が開かれる 国会の開設に至る過程を、人物の動きに即して」 とらえる。	☆議会の仕組みや憲法の内容について、現在と比較しながら考えさせるようにする。 ☆他の時代における日本の歴史と日野との関連性を想起させ、興味をもたせる。
1	⑧まとめとふり返り まとめ話し合い活動とテスト	
1	⑨日本の歴史年表と新選組の年表、日野の自由民権運動の年表から気付いたこと、興味をもったことをまとめる。	

3. 資料

①歴史年表

1825	外国船打払令が出る	外国船を見つけ次第打ち払うように命ずる。
1837	大塩平八郎の乱がおきる	元大坂奉行所の役人。
1841	水野忠邦が天保の改革をはじめる	株仲間の解散, 人返し令, 上知令。
1853	ペリーが浦賀に来航する	神奈川県浦賀沖に黒船4隻現れる。
1854	日米和親条約の締結	下田, 函館(箱館)の開港。
1858	日米修好通商条約が結ばれる	治外法権を認め関税の自主権がない不平等条約。
1859	安政の大獄	吉田松陰, 橋本左内などを処罰。
1860	桜田門外の変がおきる	大老井伊直弼暗殺される。
1867	徳川慶喜が大政奉還を行う	江戸幕府の滅亡。
1868	戊辰戦争がはじまる	旧幕府軍と新政府軍の戦い。
1868	五か条の御誓文が出る	新しい政府の方針。
1869	版籍奉還が行われる	土地と人民を朝廷に返上。
1871	廃藩置県が行われる	藩を廃止して府と県を置く。
1871	岩倉具視らを欧米に派遣する	不平等条約の改正が主目的。
1871	日清修好条規をむすぶ	清と国交を開く。
1872	富岡製糸場を開く	群馬県の富岡。殖産興業の一環。
1872	学制を公布する	国民の全てが学校教育を受けられるようにした。
1873	地租改正条例を公布する	地価の3%を現金で納める。
1873	徴兵令を公布する	20歳以上の全ての男子を徴兵。
1876	日朝修好条規をむすぶ	朝鮮を開国させる。
1877	西南戦争がおこる	西郷隆盛, 最後の士族の乱。
1881	国会開設の詔が出される	10年後に国会を開くことを約束。
1881	板垣退助が自由党を結成する	フランス自由主義の影響。
1882	大隈重信が立憲改進黨を結成する	イギリスの議会政治を手本。
1885	内閣制度ができる	初代内閣総理大臣伊藤博文。

1889	大日本帝国憲法が公布される	天皇主権, 君主権の強いプロシア憲法が手本。
1894	治外法権が撤廃される	最初にイギリスと。外務大臣陸奥宗光。
1894	日清戦争がおこる	きっかけは, 朝鮮の甲午農民戦争。
1895	下関条約が結ばれる	台湾, リャオトン半島, 賠償金などを得る。
1901	八幡製鉄所が操業を開始する	日清戦争の賠償金を元に設立。
1902	日英同盟結ぶ	ロシアの南下政策を恐れたイギリスが日本と手を結ぶ。
1904	日露戦争がおこる	中国の東北部(満州)をめぐる戦い。
1905	ポーツマス条約が結ばれる	韓国に対する優先権。樺太の南半分を得る。
1911	関税の自主権が回復する	最初にアメリカと。外務大臣小村寿太郎。
1914	第一次世界大戦がはじまる	サラエボ事件をきっかけに。
1915	中国に二十一か条の要求を出す	中国における権益の拡大を押しつける。
1917	ロシア革命がおこる	指導者レーニン。
1918	米騒動がおこる	富山県から全国各地に広がる。
1918	原敬の政党内閣が成立する	はじめての本格的政党内閣(立憲政友会)
1919	朝鮮で三・一運動がおこる	日本からの独立を叫ぶ。
1919	中国で五・四運動がおこる	二十一か条の要求の取り消しなどを叫ぶ。
1919	ベルサイユ条約が締結される	ドイツとの間に結ばれた条約。
1920	国際連盟成立	アメリカ大統領ウィルソンの提唱。
1925	治安維持法の成立	社会主義者を取り締まる法律。
1925	普通選挙法の成立	25 歳以上の全ての男子に選挙権が与えられる。
1929	世界恐慌がおこる	ニューヨークの株価の大暴落がきっかけ。

参考文献

○日本史歴史年表 (<http://www2.ocn.ne.jp/~ibazemin/nihonshi.htm>)

②新選組年表

年 代	月 日	新選組・出来事	新選組と日野との関わり
1823年 (文政10年)			佐藤彦五郎、日野宿問屋（日野本郷名主）佐藤家に生まれる
1829年 (文政12年)			井上源三郎、日野宿北原に生まれる
1834年 (天保5年)			宮川勝五郎（後の近藤勇）上石原村（現調布市）に生まれる
1835年 (天保6年)			土方歳三、石田村に生まれる
1858年 (安政5年)	8月		天然理心流佐藤道場門人23名が牛頭天王社に懸額を奉納
1863年 (文久3年)	1月18日		近藤勇が佐藤彦五郎宛に手紙
	2月8日	浪士組が江戸を出発、2月23日に <u>京都</u> へ到着	井上・土方等浪士組に参加、将軍警護のため京都へ
	3月12日	会津藩お預かりになり壬生浪士組と名乗る	
	3月23日		近藤勇が佐藤彦五郎ら17人宛に手紙
	3月25日	殿内義雄刺殺	
	6月3日	大坂の力士と乱闘	
	8月12日	大和屋焼き打ち	
	8月18日	八月十八日の政変	

	9月25日	壬生浪士組が新選組に名を改める	土方歳三、新選組副長に
	9月26日	御倉伊勢武、荒木田左馬之助、楠小十郎、長州藩の間者として粛清	
	10月20日		近藤勇が佐藤彦五郎宛に手紙
	11月		土方歳三が小島鹿之助宛に手紙
	11月29日		近藤勇が佐藤彦五郎宛に手紙
	12月27日	野口健司切腹	
1864年 (元治元年)	4月12日		土方歳三が佐藤彦五郎宛に手紙
	6月5日	池田屋事件 安藤早太郎、新田革左衛門ら負傷し1ヵ月後死亡、奥沢栄助戦死	
	6月10日	明保野亭事件	
	6月20日		土方歳三が佐藤彦五郎宛に手紙
	7月19日	禁門の変	
	8月頃	近藤勇の態度に遺憾を感じた永倉新八、原田左之助、斎藤一、島田魁、尾関政一郎らが会津・松平容保に非行五ヶ条を提出。	
	10月9日		土方歳三が近藤勇・佐藤彦五郎宛に手紙
	10月27日	伊東甲子太郎ら新選組に入隊	
1865年 (慶応元年)	1月8日	ぜんざい屋事件	
	2月23日	山南敬助切腹	
	3月10日	西本願寺へ屯所を移す	
	9月1日	松原忠司死亡	
	11月4日		近藤勇が佐藤彦五郎ら3人宛に手紙
1866年 (慶応2年)	2月15日	河合耆三郎切腹	
	3月29日		土方歳三が宮川音五郎・近藤ツネら宛に手紙
	4月1日	谷三十郎死亡	
	6月		武州一揆、日野宿組合農兵隊出陣
	9月12日	三条制札事件	
1867年 (慶応3年)	3月20日	伊東甲子太郎、藤堂平助ら13人離隊	
	6月10日	幕臣取り立てが決まる	
	6月15日	不動堂村へ屯所を移す	
	6月22日	武田観柳斎刺殺	
	11月18日	油小路事件 伊東甲子太郎、藤堂平助、毛内有之助、服部武雄ら刺殺	
	12月		佐藤彦五郎ら八王子宿壺伊勢屋での浪士捕縛に加わる
	12月7日	天満屋事件	
	12月18日	近藤勇が狙撃され負傷	
1868年 (慶応4年)	1月3日	鳥羽・伏見の戦い 隊士2名が戦死	
	1月5日	淀千両松の戦い 井上源三郎ら14名戦死	
	1月6日	橋本の戦い 隊士4名が戦死	
	3月6日	甲州勝沼の戦い 隊士2名が戦死	甲陽鎮撫隊、甲府城に向かう途中勝沼で東征軍と戦争。敗退。

			甲陽鎮撫隊に協力した日野宿、東征軍によって徹底的な搜索を受ける
	3月12日	永倉新八、原田左之助ら 靖兵隊となり離隊	
	4月2日	下総流山に陣を敷く	
	4月3日	近藤勇、新政府軍に投降する	
	4月12日	土方歳三、旧 幕府軍に加わる	
	4月19日	宇都宮城の戦い	
	4月25日	近藤勇、板橋で斬首	
	5月30日	沖田総司、肺結核により死亡	
	8月21日	母成峠の戦い	
	8月24日	山口二郎、池田七三郎ら 13 人会津に残母成峠の戦い	
(明治元年)	10月26日	旧幕府軍、箱館・五稜郭へ入城する	
1869年 (明治2年)	4月13日	第一次二股口の戦い	
	4月24日	第二次二股口の戦い	
	5月5日	市村鉄之助箱館脱出	
	5月11日	一本木関門付近で土方歳三戦死	
	5月14日	相馬主計新選組局長就任 弁天台場の新選組、降伏する	
	5月18日	旧幕府軍降伏 戊辰戦争終結	
1888年 (明治21年)	7月		高幡山金剛寺境内に「殉節両雄之碑」を建立

参考文献

- 新選組！ (<http://www.shinkawa-h.sapporo-c.ed.jp/jyoho/web2006/2714/index.html>)
- 新選組のふるさと日野 ―甲州道中日野宿と新選組― 平成15年5月1日
発行 新選組フェスタ in 日野実行委員会
- 日野市新選組のふるさと歴史館叢書 第一輯 特別展 新選組誕生 平成18年3月31日
発行 日野市
- 日野市新選組のふるさと歴史館叢書 第二輯 第二回特別展 新選組 京都の日々
平成18年3月31日 発行 日野市

③日野の自由民権運動

日野における中心的な自由民権家として『「郷土日野」指導事例第2集』に

日野宿では	日野信蔵 高木吉蔵
七生村では	土方啓次郎 森久保作蔵

を取り上げ、日野の民権運動の概要を記載、合わせて活用していただきたい。

身近な地域から見た人口集中

1. 教材化の意図並びに教材の概要

ここ数年間における市の人口統計の推移をみると、これまで長期間にわたって人口 0 人であった町に人口が増加する等、事象の変化がおきている。これは、工場敷地の一部に高層のマンションが建ち、他地区等からの転入がその理由である。

そこで、こうした事象を生かして、自分たちが住んでいる市や町の人口を他と比較することにより、地域についての地理的な認識を正確に把握し、郷土への関心や愛着を深めると同時に都市の人口集中の地理的、社会的要因などを考えさせる機会としたい。

2. 指導計画

○中学校第 1 学年 社会科

単元 「身近な地域を調べよう」 2 時間

(1) 単元のねらい

学区内の町の人口密度や人口の増減率を調べ比較することによって、全国から見た郷土、東京都から見た郷土の概要を認識する。

また、普段地域で見慣れている風景（土地利用）や建物（マンションなどの住宅、スーパー・コンビニなどの商業施設や工場など）を分析することによって、人口の集中についての地理的・社会的要因を探る。

さらに、1980 年（昭和 50 年）当時の町の人口と現在の人口（2006 年、平成 18 年）と比較することによって、学区内の町の変化を探り、郷土への関心を深める。

(2) 指導計画

第 1 時 （1 時間）

日本や東京都、日野市、学区域の町の人口密度を比較することによって、日本全体から見た郷土、東京都から見た郷土の人口集中の度合いを認識する。

そして、自分たちの通う学区域の町の人口密度や高層マンション、工場、スーパー・コンビニ・銀行などの商業施設、交通機関などを調べ、人口集中地域の社会的要因を考えさせる。

また、1980 年と 2006 年の人口増減率から、町の変遷を調べ、郷土への関心・愛着を深めさせる。

第 2 時 （1 時間）

日野市内の町別人口密度の分布図を作成し、日野市の中で人口の集中している町を調べる。

また、1980 年（昭和 50 年）当時の町の人口と、現在の人口（2006 年、平成 18 年）と比較することによって、人口が大きく増加している地域や町を調べる。

そして、分布図に交通機関（JR 線、京王線、モノレール線の駅やルート）を記入したり、周辺の建物などを調べたりして、都市の人口の集中する要因を考えさせる。

(3) 展開例 (第1時)

	指 導 内 容	備 考
導 入	・日野市の人口密度は全国と比べてみると高いのか、低いのか。同様に、東京都と比べてみるとどうなのかを生徒に質問する。また、日野市の人口密度はどれぐらいなのかを発表させ、人口の集中について関心を持たせる。	日本の人口密度332人/km²をあげて、生徒に質問する。
展 開	・ワークシートを配布し、東京都・東京特別区・日野市や日野市周辺都市の人口密度を調べさせ、結果を発表させる。 (全国と比べると日野市の人口密度ははるかに高いこと、東京都と比べてみてもやや高いことに気づかせる。) ・全国と比べてみると日野市は人口密度が高く都市部にあたる。 ・東京都と比較してもやや高いが、特別区と比べると、はるかに低い。 ・人口密度の度合いは何によって左右されているのか。 ・学区域の町の人口密度、人口増減率を調べ、どの地域に人口が集中しているのかを調べる。 また、それぞれの町に見られる高層マンション、スーパー、コンビニなどの商業施設を表に記入させ、人口が集中している地域の特色を考える。 ・結果を発表させる。	・人口密度の定義についてもふれる。 東京都 5510 人/km² 東京特別区12754人/km² 日野市 5821人/km² 立川市 6750人/km² 八王子市2742人/km² ・人口の集中している町には高層マンションや商業施設が多い。 ・人口増加率の大きい町は工場の跡地が高層マンションになっている。それらの地域はJR豊田駅から近い。
ま と め	・人口の集中は商業施設や交通機関の発達している地域など地理的、社会的な要因が大きく関わっている。	

3. 資 料

(1) ワークシート

①日野市の人口密度を全国、東京都などと比べてみよう

2000 年

	人口（万人）	面積（km ² ）	人口密度（人/km ² ）
日本	12607	380000	
東京都	1205	2187	
東京特別区	792	621	
日野市	16.3	28	
立川市	16.2	24	
多摩市	14.1	21	
八王子市	51	186	

②日野四中の学区域にある町の人口密度を調べてみよう

	面積(km ²)	1980 年		2006 年		
		人口(人)	人口密度(人/km ²)	人口(人)	人口密度(人/km ²)	1980 年と比べた人口増減率(%)
富士町	0.11	0	0	1119		—
多摩平	1.31	16991		13689		
東平山	0.64	6014		3932		
西平山	1.15	4888		6194		
旭が丘	1.28	7910		11666		
さくら町	0.12	0	0	0	0	0

③学区にある建物（マンション・商業施設・工場など）

	大きなマンションや団地	商業施設（スーパー、コンビニ、ショッピングセンターなど）	学校、工場など	その他（徒歩 10 分程度の最寄り駅、近隣の商業施設など）
富士町				
多摩平				
東平山				
西平山				
旭が丘				
さくら町				

(2) ワークシート（記入例）

①日野市の人口密度を全国、東京都などと比べてみる

	人口（万人）	面積（km ² ）	人口密度（人/km ² ）
日本	12607	380000	332
東京都	1205	2187	5510
東京特別区	792	621	12754
日野市	16.3	28	5821
立川市	16.2	24	6750
多摩市	14.1	21	6714
八王子市	51	186	2742

②日野四中の学区域にある町の人口密度を調べてみよう

	面積（km ² ）	1980 年		2006 年		
		人口（人）	人口密度（人/km ² ）	人口（人）	人口密度（人/km ² ）	1980 年と比べた増減率（%）
富士町	0.11	0	0	1119	10173	
多摩平	1.31	16991	12970	13689	10450	81
東平山	0.64	6014	9397	3932	6144	65
西平山	1.15	4888	4250	6194	5386	127
旭が丘	1.28	7910	6180	11666	9114	147
さくら町	0.12	0	0	0	0	

③学区にある建物（マンション・商業施設・工場など）

記入例

	大きなマンションや団地	商業施設（スーパー、コンビニ、ショッピングセンターなど）	学校、工場など	その他（徒歩 10 分程度の最寄り駅、近隣の商業施設など）
富士町	グランループ ビバヒルズ		富士電機	豊田駅（JR 線）
多摩平	多摩平団地	西友 京王ストアー マクドナルド ファミリーマート 東京三菱 UFJ 銀行 みずほ銀行 都民銀行 シェル（ガソリンスタンド）	日野第六小学校	豊田駅（JR 線）
東平山	JR 豊田東日本住宅		JR 豊田電車区（車庫）	平山城址公園（京王線）
西平山			滝合小学校	
旭が丘	シティハイツ ライオンズマンション グランドステージ モナーク豊田旭が丘	パワーラークス セブンイレブン ケーヨーデイツー モスバーガー 旭軒（ラーメン店） ガスト	日野第四中学校 首都大学 旭が丘小学校 ファナック トッパンフォームズ 東芝日野工場 東京電子工業 帝人	スーパーアルプス 生協 トムスポーツクラブ
さくら町			コニカミノルタ	

(3) 日野市内の町の人口密度および人口の変遷

町名		面積 (km ²)	1980 年		2006 年		人口比 (1980 年 比)
			人口(人)	人口密度 (人/km ²)	人口(人)	人口密度 (人/km ²)	
1	多摩平(1～7 丁目)	1.31	16991	12970	13689	10450	81%
2	日野台	0.9	5600	6222	5384	5982	96%
3	さくら町	0.12	0	0	0	0	
4	富士町	0.11	0	0	1119	10173	
5	栄町	1.59	3917	2464	4876	3067	124%
6	新町	0.74	3289	4445	5139	6945	156%
7	平山	1.27	8647	6809	9175	7224	106%
8	東平山	0.64	6017	9402	3932	6144	65%
9	西平山	1.15	4888	4250	6194	5386	127%
10	大字豊田	0.02	497	24850	72	3600	14%
11	豊田(1～4 丁目)	0.96	4391	4574	5459	5686	124%
12	東豊田	0.82	5010	6110	5948	7254	119%
13	旭が丘	1.28	7910	6180	11666	9114	147%
14	南平	0.06	777	12950	664	11067	85%
15	南平(1～9 丁目)	1.96	12450	6352	16258	8295	131%
16	日野本町	1.16	22247	4441	6057	5222	169%
17	神明	0.62			5629	9079	
18	大坂上	0.54			5182	9596	
19	大字日野	1.56			9525	6106	
20	万願寺	1.13			8568	7582	
21	程久保	0.59	9740	3761	3548	6014	88%
22	程久保(1～8 丁目)	2			5183	2592	
23	大字川辺堀之内	0.4	981	2453	1080	2700	110%
24	大字上田	0.27	1137	4211	1023	3789	90%
25	大字宮	0.1	783	7830	450	4500	57%
26	大字新井	0.74	3301	4461	3853	5207	117%
27	大字石田	0.65	1304	2006	1382	2126	106%
28	石田	0.47	1258	2677	1681	3577	134%
29	高幡	0.56	2027	3620	4083	7291	201%
30	三沢	0.35	8654	7334	3044	8697	195%
31	三沢(1～4 丁目)	0.83			6800	8193	
32	落川	0.78	3551	4553	5519	7076	155%
33	百草	1.73	8819	5098	8334	4817	95%
日野市		27.41	142444	5197	170516	6221	120%

ワークシート

日野市内町別人口密度

(2006年)



人口密度

9000 人/km²以上

7000 ~ 8999 人/km²

5000 ~ 6999 人/km²

3000 ~ 4999 人/km²

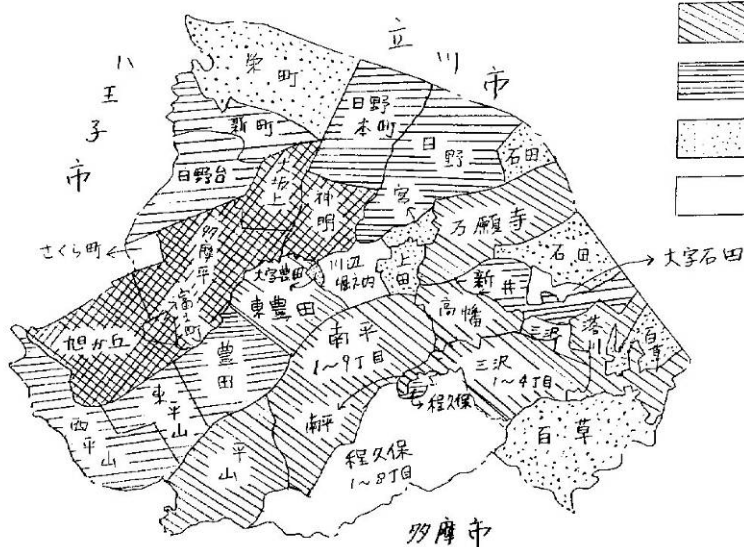
2999 人/km²以下

日野市の
人口密度
6221 人/km²

ワークシート記入例

日野市内町別人口密度

(2006年)



人口密度

9000 人/km²以上

7000 ~ 8999 人/km²

5000 ~ 6999 人/km²

3000 ~ 4999 人/km²

2999 人/km²以下

日野市の
人口密度
6221 人/km²

工場の進出（コニカミノルタ・日野自動車）

1 教材化の意図並びに教材の概要

日野市の発展は、戦前の日野五社とよばれる工場の進出と戦後の衛星都市構想に基づく、多摩平団地の造成と工業団地の造成による工場進出が基礎となっている。昨年度では、多摩平団地（指導事例第2集に収録）を扱ったので、今年度では、コニカミノルタと日野自動車を取り上げることとした。

二つの工場の歴史と日野進出の理由、その後の発展を学習することで、日野の発展を支えた工場の存在を知り、こうした工場と日野との関わりを理解する中で、現在、多摩地域において工業生産額ではトップをしめる郷土日野に着目させたい。そこで、工場の進出という視点から郷土日野を見直すことを意図し、教材化を図った。

2 単元 「身近な地域を調べよう～東京都八王子市を例に～」について

この単元は、教科書では八王子市を例にして地域調査の仕方、課題の作り方を学ぶ単元である。この単元の指導にあたっては身近な地域「日野」を取り入れた学習を展開することで、学び方を理解することと合わせて、郷土「日野」に関心と愛着を持つ『日野人』の育成を目指す。

3 単元目標

東京の地域的特色を中心部、郊外、臨海部、山地の四つの地域に分けて、統計資料、地形図、土地利用図、景観写真などを利用してそれぞれの特色を理解する。

4 単元指導計画 7 時間扱い

- 1 時 「東京都の地域区分」
- 2 時 「東京都の中心部の地域的特色」
- 3、4 時 「郊外の地域的特色」…前時、「工場の進出」郷土教材活用授業…本時
- 5 時 臨海部の地域的特色
- 6 時 山地の地域的特色
- 7 時 調べてわかったことをまとめよう

5 前時の指導

（1）小単元名 「郊外の地域的特色」（1／2）

（2）ねらい

- ①東京都では、中心部から同心円状に市街地が広がっていることに気づく。
- ②交通の発達に伴い、地価が安く良質な環境を求めて、郊外に宅地が広がっていることに気づく。
- ③市街地の拡大に伴い、耕地が減少し、住宅地や工場に変わっていることに気づく。

(3) 展開

	学習活動と内容	学習資料と支援	評価
導入	1 東京都の風景を思い浮かべる。		
展開	2 東京の市街地が拡大しているに気づく ・教科書P 6 6 図①から、東京の市街地がどのように変化しているか 3 市街地が郊外に広がっている理由を考える。 ・教科書P 6 6 図②から東京へ通勤・通学者が集中していることに気づかせる。 ・教科書P 6 6 図③から良質な住宅を取得することが困難なことに気づかせる。	教科書P 6 6 図①の市街地拡大図 ○鉄道の路線に着目させ、路線に沿って周辺県にまで拡大していることに気づかせる。 教科書P 6 6 図②通勤・通学図 ○矢印の向きに着目させる。隣接県から多いことに気づかせる。 教科書P 6 6 図③ ○土地価格、部屋数、持ち家率に着目させる。	資料活用 思考判断
展開	4 市街地の拡大に伴い土地利用がどのように変化しているか、考える。 ・教科書P 6 7 図⑥から畑や水田が市街地になったことに気づかせる。 ・教科書P 6 7 写真④⑤から農地が住宅地や工場に変わったことに気づかせる。 ・日野市への工場進出を副教材『のびゆく日野』から理解する。	教科書P 6 7 図 ⑥教科書P 6 7 写真④⑤ ○自分たちの身近な地域で住宅地の中に畑が残っている理由を考える。 『のびゆく日野』・日野市地形図・教科書写真⑤ 軽く紹介する。	資料活用 思考判断
終末	5 まとめ 日野市を例に郊外の農地が宅地や工場に変わったことを理解する。	○日野市の大規模工場の進出に着目させ、理由を考える。	

(4) 評価

市街地の拡大理由と土地利用の変化について資料から読み取り理解することができたか。

6 本時の指導

(1) 小単元名 「工場の進出」郷土教材活用授業(2/2)

(2) ねらい

工場進出の学習を通して、日野にあるコニカミノルタと日野自動車の工場の歴史的移り変わりを知ること、自分の住む地域「日野」を見直し、「郷土日野」への愛着意識をもたせる。

(3) 展開

	学習活動と内容	学習資料と支援	評価
導入	1 日野市の工場について知っていることを発表する。	○発言が出にくいときは具体的な会社名をあげる。	
展開	2 『のびゆく日野』を読み、戦前と戦後の工場進出を理解する。 ・ p 3 5、3 7 から、進出の理由を考える。 3 ビデオ『躍進する日野市』を見る。 ・ オリエント時計、神鋼電機、日本篩絹、羽田ヒューム管、富士電機、小西六、日野自動車の工場の様子を注目する。 4 資料 1 『コニカミノルタの今と昔』を読んで、コニカミノルタがどのように変化してきたか、考える。 ・ 日野市への工場進出の理由と発展を郷土教材から理解する。 5 資料 2 『日野自動車の今と昔』を読んで、日野自動車がどのように変化してきたか、考える。 ・ 日野市への工場進出の理由と発展を郷土教材から理解する。	○『のびゆく日野』から日野の工場進出には、戦前の昭和恐慌後と戦後昭和 4 0 年代ころと二度あることを気付かせる。 ○ナレーションと映像から昭和 4 0 年ころの日野市と工場の様子に着目させ、工場の拡大が日野市の発展と関係していることに気づかせる。 資料 1 『コニカミノルタの今と昔』 ○日野市に進出した理由とその後の変化の様子を資料から読み取らせる。 資料 2 『日野自動車の今と昔』 ○日野市に進出した理由を資料から読み取らせる。 ○その後の変化の様子を資料から読み取らせる。	資料活用 知識理解 資料活用 思考判断 知識理解 資料活用 思考判断 知識理解
終末	6 まとめ コニカミノルタ、日野自動車工場について知ったこと、思ったことを発表する。	○ワークシートに感想を記入させる。	

(4) 評価 日野市への工場進出と発展の様子について資料から読み取り理解することができたか。郷土「日野」を誇りに思い、愛着意識が芽生えたか。

7. 実践報告

授業実践では、1 年生 99 名で授業を行い、『工場進出』について、「日野の工場について知っていること」を生徒に聞き、『のびゆく日野』『昭和 40 年頃の日野市内の大工場のビデオ』、資料 1 『コニカミノルタの今と昔』、資料 2 『日野自動車の今と昔』を用いて、それぞれの工場の歴史と日野との関わりを学習した。

日野市内の工場について知っていることについては、生徒から日野自動車とコニカミ

ノルタの名前が多くあがった。日野自動車は 83%の生徒から名前があがったのは、小学校 5 年生の社会科見学で訪問した経験があるからである。しかし、トラックではなく、日野自動車という社名から、日野工場では自動車を作っていると答えた生徒も少数みられた。コニカミノルタは 60%の生徒から名前があがった。コニカの名前をあげていた生徒は、1 月の実業団駅伝の活躍から知った、桜祭り、お花見ができる、コニカミノルタ杯（サッカー）から、知っていたと理由をあげていた。他には少数であったが、ファナック、横川電機、富士電機、東芝、凸版ファーム、TEIJIN の名前があがった。これらは、工場の近所にいる、近くを通ったことがあるからと生徒は答えていた。

日野の工場といえば、まず、日野自動車があがったのは日野市の代表的な大工場であることと、地名とのつながりと小学校で社会科見学をしたことからと推察された。

なぜ工場が多いのか、生徒に考えさせた。『のびゆく日野』を使用しての日野の工場進

出の時期と理由をつかませた後、ビデオ『躍進する日野市』で昭和40年代の日野市の工場の様子を確認した。ビデオでは、オリエント時計、神鋼電機、日本篩絹、羽田ヒューム管、富士電機、小西六、日野自動車の工場の様子が写され、生徒たちは「うわ、古い車」「労働者が多くいる」「さくらフィルム、知ってる」と声があがるなど、興味・関心を持ってビデオを見ていた。

生徒から名前が多くあがった、コニカミノルタと日野自動車について学習を進めた。

実際に映像にあった工場の様子を見た後なので、資料1『コニカミノルタの今と昔』の資料を生徒は熱心に読んでいた。資料1から、78%の生徒が日野に工場が進出した理由を軍関係の施設に近い立地条件の良さとフィルム作りに必要な良質の地下水が豊富であるからと答えた。1年生には、内容が難しい漢字があったが、よく内容を読み取り理解することができた。学習したことで、生徒は改めて、郷土のコニカについて、「自分はコニカには祭りでしか行ったことがないから、どんな工場かはわからなかったが、今回勉強してよくわかった」「日本初のカラーフィルムを作ったこと」「カメラ事業から撤退したこと」「コニカは最近できたと思っていたが、実はすごく昔にできたことを知ってびっくりした」等と発言する等、『コニカミノルタの今と昔』の郷土教材からコニカの歴史を知るという学習のねらいは達成することができた。

生徒はコニカの学習を通して、「コニカの周辺がコニカに関係するさくら町であることを知って驚いた」「日野が地下水に恵まれていたこと」や、「日野がいろいろな良い環境に囲まれていたのが印象に残った」「日野がコニカに選ばれたことがすごいと思った」と発言し、郷土日野を見つめなおしたり、改めて関心を持ったり、誇りに思う気持ちを持ったりする生徒がみられた。

資料2『日野自動車の今と昔』については、日野に進出した理由について、資料2から、60%の生徒が監督する相模陸軍造兵廠に近いこと、陸軍の関係から、日野町が熱心に誘致であったからと答えた。授業を通して、生徒は「日野自動車がトヨタ車を作っていること」、「世界一過酷なパリダカールラリーで優勝したこと」や「1～3位を独占したこと」、「日野自動車が世界に展開していること」、「日野自動車が日本発のトロリーバスを作ったこと」、「日野自動車のブランドのトラックをこんな昔から作っていることを知って驚いたこと」、「日野自動車の名前は知っているが、詳しくは知らなかったので、日野自動車のことを初めて詳しく知って驚いた」と発言し、小学校の社会科見学とは別の歴史的なことや日野との関係を知ったことで、驚きとともに素直な感想をもった生徒が多かった。

工場の進出の授業後の感想では、「日野を拠点にした会社が世界に発展していること」

「二社とも明治時代からあった会社でびっくりした」「二つの会社とも知らなかったもので、詳しく知ることができて良かった」「けっこうすごい会社があったのを知った」等、コニカや日野自動車のことに関する感想を多くの生徒が持った。さらに、生徒は工場だけでなく、日野市に関わった感想を25%の生徒があげていた「あまり気にしていなかったが、日野は、昔はすごいところだったんだなあと思いました」「いろいろな条件がそろっていたから日野はこんなに発展していったのだと思った」「日野はすごいことがわかった。工場が日野を選ぶ理由がわかった」「昔のことで今まで知らないことが多かった」「日野は田舎だと思っていたけど、ぜんぜん違いました。日野はけっこう大きい町で、大きな工場があることがわかりました」「日野はいろいろな意味で、便利な場所だと思った」「今までは日野の工場等意識していなかったが、これからは工場や日野の町を意識していき

たい」「私は日野にこんなに工場があることも知らなかったし、その工場が日野から発展し、いろいろな物を作り出していることを知り、驚きすごいなと思いました。」等、日野市に関する感想が多くあがったことは、郷土日野との関わりを知り、理解するというねらい通りの反応が得られた。

この授業を通して、コニカミノルタと日野自動車のことについて、歴史や日野とのかわりを知るだけでなく、郷土日野を見つめなおすきっかけとなったことがみられたのは成果であった。

また、実際に「郷土教材」を授業に取り入れることで、郷土の姿を知り、郷土に対する関心が高まり、郷土を誇りに思う意識が生まれるだけでなく、さらに一歩進んで、「昔のことを学んで、未来に生かすことは大切だと思った。」と生徒の感想にあるように、郷土の発展を願う生徒がみられたのは大きな成果であった。

このように郷土教材を取り入れた授業実践により、地域から郷土意識まで高めることができるという点で、郷土教材の有効性がわかり、日野を誇りに思い、郷土の発展を願う日野人の育成に郷土教育が重要であると改めて認識する機会となった。

<資料 1> コニカミノルタ東京サイトの今と昔



明治12年(1879)小西本店は杉浦六三郎によって写真機材の国産化に取り組み、同35年(1902)に工場、六桜社を新宿・淀橋に開設した。

昭和4年(1929)に六桜社は、輸入フィルムベースに乳剤を塗布した国産フィルム「さくらフィルム」の製造に成功した。

X線フィルムの増産をはじめとする軍部からの要請や、昭和15年(1940)東京オリンピックの開催予定からフィルム需要が見込まれることから、フィルムベースから一貫生産体制をとるために、日野台に新工場を増設することにした。

日野台が選定された理由は、立川や相模原の軍関係施設に近い立地条件と豊富で良質な地下水が得やすく、電力料金が割安であることに加え、当時の有山町長ら日野町の有力者が昭和恐慌で打撃を受けた町経済の活性化のために大工場の誘致を進め、用地取得に協力的であったからである。水質調査のために、用地周辺の家々の井戸水を採取したこともあった。昭和10年(1935)から用地買収が進められ、昭和12年(1937)に工場が竣工した。途中昭和11年(1936)には社名を六桜社から小西六に変更した。その後工場設備を拡充し、フィルムベースから製品までの一貫生産を行う完全国産化が達成された。そして、昭和15年(1940)に日本初の国産カラーフィルム「さくら天然色フィルム」を発売した。

太平洋戦争の時期、六桜社では、軍用特殊フィルムやX線フィルムなどの軍需製品の増産を続けたが、戦時中の労働力不足を補うために、日野分工場では、正規従業員のほか、幼年工、女子挺身隊などが働き、終戦時には2000余名が生産に従事した。太平洋戦争が終わると、日野工場は解散となった。

戦後の昭和20年(1945)9月6日に従業員400名で、日野工場は生産を再開した。占領軍の要請でX線フィルムを大量生産した一方で、昭和23年(1948)には戦争の資材難から生産中止となっていた「さくら天然色フィルム」を再発売した。昭和30年代になると、日本経済は高度経済成長を迎え、昭和33年(1958)にはインスタントラーメンが発売され、電気釜、冷蔵庫、電気洗濯機などの電化製品の普及が始まり、生活が豊かになり始めた。生活の向上は余暇を生み出し、1960年代後半には自動車が普及し始める中、レジャーブームが起こりカラーフィルムとカメラの需要が大きく伸び、会社の業績も急伸した。

昭和32年(1957)には、日野工場でカラーネガフィルムの生産が始まり、カラー時代の幕開けとなる24枚撮りフィルムを発売した。昭和49年(1979)には世界初のストロボ内蔵カメラ「ピッカリコニカ」発売し、その後のストロボ内蔵カメラの主流を作った。昭和52年(1982)には、ピントが自動的に合う世界初のオートフォーカスカメラ「ジャスピコニカ」を発売した。その後写真の大衆化をもたらしたフィルム入りカメラ「撮りっきりコニカ」を発売し、誰でも気軽に写真を撮る時代を作り上げた。オフィス機器、医療機器、フィルム、カメラ事業などを展開する小西六は昭和62(1992)には社名をコニカと変更し、平成15年(2003)8月にはミノルタと経営統合しコニカミノルタグループとなった。平成18年(2006)3月にはカメラ事業から全面撤退した。

活用学年と教科・道徳・領域等

中学1年 地理 校外の特色を調べよう 中学2年 歴史 高度経済成長で国民生活が変化する 中学3年 現代社会と私たちの生活

＜資料 2＞ **日野自動車の今と昔**

明治 43 年（1910）日野自動車の前身の東京瓦斯工業株式会社が設立され、大正 6 年（1917）TGE-A 型 2 t トラックの生産を開始した。大森と川崎の工場で軍用車を中心に生産を行っていたが、生産規模を拡大し、政府の保護を受けるために、昭和 12 年（1937）に東京瓦斯電気工業自動車部と株式会社自動車工業の合併がなされ、東京自動車工業が設立された。同社は陸軍の特殊車両の製造を行っていたが、急増する軍需に対応するために、陸軍特殊車両の専門工場を日野台に建設することになった。日野台が選定された理由は経済的理由のほか、陸軍との関係や、監督する相模陸軍造兵廠に近い立地条件と当時の日野町が誘致に熱心であったからであった。

昭和 13 年（1938）から用地買収と工場建設が進められ、昭和 16 年（1941）に工場が竣工した。昭和 16 年（1941）には社名をディーゼル自動車工業に変更した。その後、昭和 17 年（1942）5 月 1 日に装甲車などの軍用特殊車両の製造から販売まで行う企業として日野製造工場は分離独立して、日野重工業が設立された。

太平洋戦争の時期、日野重工業では、軍用特殊車両の増産を続けたが、昭和 20 年（1945）には米軍の空襲を受け被害を出した。太平洋戦争が終わると、日野重工業は解散となった。

戦後の昭和 20 年（1945）10 月に従業員 300 名で、日野重工業は生産を再開した。当初は鍋や釜や農具を製造したが、占領軍の許可を受け、昭和 22 年（1947）にトレーラーバスを生産した。昭和 23 年（1948）には会社資本を増やし日野ディーゼル工業となり、昭和 25 年（1950）には単車型の大型ディーゼルトラック・バスを発売し、架線で走る日本初のトロリーバスを発売した。昭和 24 年（1949）に GHQ から乗用車生産の許可があり、念願の乗用車生産を独立後の昭和 28 年（1953）に果たした。当初は乗用車生産の技術が未熟な為、フランスルノー公団と技術提携を受けてルノー 4 C V の生産を行い日野ルノー販売を設立して発売した。日野ルノーは経済性の高さから好評であった。昭和 34 年（1959）には社名を日野自動車工業と改称し、さらに完全な国産化を目指して昭和 36 年（1961）に純国産車日野コンテッサ 900 を完成させ、乗用車時代の本格的幕開けを担った。昭和 38 年（1963）には日野ルノーの生産を終了し、昭和 39 年（1964）には世界に通用する小型車を目指しコンテッサ 1300 を発売した。日本経済は高度経済成長を迎え、自動車が普及し始める中、昭和 41 年（1966）のトヨタ自動車との提携を機会に日野自動車工業は小型車生産から撤退し、昭和 43 年（1968）には「TOYOTA」車両の受託生産を開始した。

乗用車生産から撤退後、主力のトラック・バス生産に力を入れ、公共交通、物流の発展を担った。昭和 46 年（1971）には、直接噴射式エンジン搭載の大型トラックを販売し、平成 3 年（1991）には世界初のディーゼル電気ハイブリットバスを発売し、世界一過酷なパリダカールラリーに日本の自動車メーカーとしてトラック部門に参戦、完走した。平成 9 年（1997）には同部門で 1 ～ 3 位を独占し、耐久性と技術力を世界にアピールした。国内生産だけでなく、海外にも早くから進出し、昭和 39 年（1964）のタイを初めとして、フィリピン、インドネシア、台湾、パキスタン、ベトナム、アメリカと工場と販売拠点を設立し、カナダ、オーストラリアには販売拠点を設立した。その後、平成 11 年（1999）日野自動車と改称しトヨタ自動車との関係を強めつつ、スウェーデンの会社と協業を結ぶなど本社日野工場を中心にグローバルに展開する自動車会社となった。

活用学年と教科・道徳・領域等

中学 1 年 地理 校外の特色を調べよう 中学 2 年 歴史 高度経済成長で国民生活が変化する 中学 3 年 現代社会と私たちの生活

戦時下の日野

1. 教材化の意義並びに教材の概要

日野の歴史を学習する際、戦国時代の日野用水・幕末の新選組・明治の自由民権運動あたりは地域の様子が分かり、生徒も郷土日野の姿を身近なものとして捉えることができる。生徒の目前に展開している現在の日野の姿もまた、リアルに捉えることができるのであろう。しかし、アジア・太平洋戦争前後は、歴史の全体像として学習はしやすいが、日野で生活していた人々の姿をなかなか身近には感じられないのではないだろうか。

中学生用副読本「のびゆく日野」には、日野にやってきた港区と品川区の学童疎開の様子は掲載されている。また、3月には東京大空襲の話題が、8月になると八王子は八王子空襲、ランドセル地蔵のこと、多摩地区では隣の立川飛行機と関連した空襲等の記事が新聞の地方版に掲載される。その一方、日野の戦時下はどのような状況だったのだろうか。戦時中の郷土の様子を知り、平和を作り出していく児童生徒として成長してほしいと願い教材化に取り組んだ。

2. 指導計画

中学第2学年 社会科 歴史分野 単元「近現代の日本とアジア」

(1) 単元の指導計画

教科書 第6章 第3節「第二次世界大戦とアジア」

指導目標 ①第二次世界大戦の原因や概要について理解させ、ヨーロッパとアジアの動きを比較しながら考えさせる。

②戦争体験者などに、積極的に体験談を聞く態度を育てるとともに、戦争の被害と加害の実態を調べ、聞こうとする態度を身につけさせる。

指導計画 (2・3時で日野の事例を扱う)

時	おもな学習内容・学習活動	評価の例
1	第二次世界大戦 ・ヨーロッパでの戦争 ・戦争の拡大 ・ドイツの占領政策	・ユダヤ人迫害など平和の名の下に行われた行為に関心を持つ。 ・三国同盟を結んだ日本政府の主張などを公正な立場から考えようとする。 ・戦争の起こった経緯を理解している。
2	アジア太平洋での戦い その1 ・東アジアでの動き ・太平洋戦争の始まり ・	・地図でヨーロッパ、アジア太平洋での戦争の拡大を読み取っている。 ・感情的なことのみに流されず、統計的な実態を読み取っている。
3	アジア太平洋での戦い その2 ・総力戦と戦争の長期化 ・戦争の犠牲	・文章資料などから、当時の日本の民衆の願いや思いを読み取っている。 ・戦争の被害と加害の実態を調べようという態度を身に付けている。
4	戦争の終結 ・ドイツ、イタリアの降伏 ・日本の降伏	・戦争終結までの概要を理解している。 ・ファシズム、反ファシズムの主張を調べ公正な立場から意見をいえる。 ・第二次世界大戦の原因、経過、結果について簡単にまとめられる。 ・戦争と国民について、関心を持ち、平和を希求する態度を身に付けている。

(社会科副読本「のびゆく日野」52～57ページ)

(2) 展開例

指導計画の2～3時限で、教科書等を使用し、全体の歴史の流れを把握した後、日野の事例を紹介する。そして「調べる・聞き取る・実際に見に行く」という活動を導入し、レポートを書く。

例) 身近な戦争の遺跡を探してみよう。

例) 身近な人から戦争の時代の話聞こう。

例) 戦時中、学区はどのような姿だったか調べよう。

例) 戦時中、中学生はどのような生活をしていただろう。

例) 日野の戦没者の表から、統計地図をつくろう。

例) 学童疎開の児童の生活を調べよう。(「のびゆく日野」参照)

その際、日野からの出征、満蒙開拓といったアジア太平洋につながる視点も生徒に提示したい。

3. 資料

(1) 参考となる資料

＊ 「戦時下の暮らし」

日野図書館が平成19年度日野市平和月間にまとめた所蔵図書リスト

＊ 「明日に伝える戦争体験～戦後50年記念平和事業『戦争資料展』によせて～」

1997 日野市ふるさと博物館

＊ 「聞き書き・日野の昭和史を綴る」 1994 日野中央公民館でまとめた資料

＊ 「日野市史 通史編四」 1998 日野市

＊ 「多摩のあゆみ 35号 多摩の戦災史」 1984 多摩中央信用金庫

＊ 「多摩のあゆみ 79号 戦時下の多摩」 1995 多摩中央信用金庫

＊ 「多摩のあゆみ 91号 多摩の戦時疎開」 1998 多摩中央信用金庫

＊ 「多摩の空襲と戦災-50年前ここは戦場だった」

小沢長治 1995 けやき出版

＊ ひの 史跡・歴史データベース (ホームページ)

(2) 日野と戦争

① 軍需工場と日野

大正11(1922)年、立川に陸軍飛行場がつくられて、多摩地区には軍都立川とその周辺に軍関連の施設と軍需工場がつくられた。

＊日野でも、昭和9(1934)年以降、積極的な工場誘致がおこなわれ、戦時下には各工場に軍需物資が製造された。

日野重工業(現日野自動車工業)で陸軍特殊車両(いわゆる戦車)が製造。東洋兵器工業日野工場(現セイコーエプソン)では高射砲弾の先端につける時計式信管が製造。富士電機製造豊田工場(現富士電機)では陸軍軍用機のプロペラ駆動装置や自動操縦装置用の電動発電機などが製造。小西六写真工業日野工場(現コニカ)では、軍用の航空フィルムや、Xレイフィルムなどが生産されていた。

＊立川陸軍航空工廠の機能移転が論議され、七生村三沢地区に地下工場が作られることとなった。

昭和20(1945)年2月工事開始、朝鮮人労働者・国民学校の児童も動員された。予定より工事が遅れ、完成の75%の段階で終戦。戦後、七生地区で陥没事故があり地下壕は一部埋め戻された。

② 日野の戦争遺跡

＊現第三小学校に高射砲第十四連隊日野があった。

一万メートルの射程がある性能の良いもので、アメリカ機を何機か落とし、谷保や砂川のほうに落ちたとの証言がある。高射砲は戦後一度埋められたが、戦後、くず屋が持って行ってしまった。

＊高幡不動尊の五重塔前の山道を登っていくと、左手の大きな松の木の幹に松根油をとるために削った後が残っている。松根油は石油の代用品としてつくられたもの。戦争が激しくなった昭和18年か

ら終戦まで行われていた。小学生を動員し掘り出してきた松の根をドラム缶の内釜に入れて蒸す。出てきた気体を冷却して液体として油を取り出す。日野では、高幡の川崎街道沿いにあった七生農協の西の空き地で行われていた。

＊南平の八坂神社の鳥居には、爆弾の破片によってえぐられた跡がある。昭和20年4月4日の空襲の時のもの。

＊宝泉寺の裏 矢の山公園に日野の戦没者慰霊碑がある。

＊東町の延命地蔵。現在 日野のニューロシティ南交流センター付近にある。

昭和20年4月4日の空襲でなくなった人々を供養するために建立された地蔵尊。

＊次の寺院は学童疎開の場となった。

品川区大井第一国民学校の学寮となった場所

大昌寺、宝泉寺、欣浄寺、善生寺敷地内にあった日野国民学校豊田分教場旧校舎
浅川岸の安田氏別荘、八王子の龍光寺

旧赤坂区 現港区氷川国民学校

高幡山金剛寺、寿徳寺、国立の南養寺

学童疎開については「のびゆく日野」参照

＊七生福祉園及び都立七生養護学校の敷地には、東京府拓務訓練所（満蒙開拓の訓練施設）があった。

→後述

南平の鳥居



高幡不動松根油をとった跡



東町の延命地蔵



矢の山公園の慰霊碑



③日野の人々の生活

＊1931年満州事変が勃発、その前後からさまざまな生活の取り組みが行われている。

以下、「日野市史 通史編四」より抜粋

昭和5（1930）年 日野町生活改善実行会の実行規約条項が作成され、検討印刷して各戸に配布するようにとの文書が残っている。その一部分は、次のような内容である。

一、一般に年礼は之を廃し一月元旦町民代表者一同校庭に集まり（分教場も同じ）名刺交換会を行い厳粛に祝意を表す。

二、自治会と連絡して時々名士高德者の講和会を開き民育の向上を図ること

三、（略）

四、祝事に関する件、産衣は華美を避けること、七歳の祝着は男児は綿服又は校服とし女児は銘仙程度に止め質素を旨とすること、祝いは長男長女に限ること（以下略）

五、仏事葬儀に関する件、葬儀は之を廃すること、就学前の子女の葬式はその組合内に限り之を取り行い香典返しの礼は廃すること（以下略）

（以下略）

昭和8（1933）年 三多摩地方の防空演習が開始されている

昭和12（1937）年 南多摩郡で門松廃止

日野町では全町民一致して出征者あて以外の年賀状を出さないことを決定

昭和12（1937）年 日野出身者の訃報が報道されるようになる。

12月11日には江南戦線で戦死した日野町豊田出身者の町葬が日野尋常小学校校庭で行われている。

昭和13（1938）年 各種団体と小学生等が戦勝祈願の集会を開き、全戸一菜主義実施、児童の一戸一品献納募集を行い、日野町85円、七生村82円95銭が集まっている。

昭和14（1938）年 日野町銃後奉公会が作られる。

昭和14（1938）年 バス・ハイヤー大整理 八王子の高尾自動車株式会社でハイヤーの木炭代用車化始まる。日野重工業でも薪自動車も製造されている。

＊ 日野町役場 民生課「昭和三十七年度戦没者名簿」に見る日野市域の戦没者（1）

	陸軍	海軍	その他（2）	合計	(1) 日野町と七生村合併が昭和33年 (2) 陸海軍戦没者には軍属を含む。その他は陸海軍の別が不明の者 他 (3) 太平洋方面とはトラック島、サイパン島、テニヤン島など (4) 日本国内とは、日本国内の病院、自宅での死亡をさす
満州および関東州方面	24	0	2	26	
朝鮮	0	0	1	1	
香港	1	0	0	1	
台湾	3	0	1	4	
北方・ソビエト方面	7	1	1	9	
中国	69	15	2	86	
仏印・タイ・ビルマ方面	30	0	0	30	
ジャワ・スマトラ・ボルネオ方面	9	1	2	12	
ニューギニア・ソロモン方面	31	2	1	34	
南方方面	4	0	0	4	
太平洋方面（3）	13	11	1	25	
フィリピン方面	74	19	3	96	
沖縄方面	10	1	1	12	
硫黄島・小笠原・本州近海付近	8	7	0	15	
日本国内（4）	19	6	0	25	
戦災による死亡	0	0	9	9	
合計	302	63	24	389	

（「明日に伝える戦争体験～戦後50年記念平和事業『戦争資料展』によせて～」

日野市ふるさと博物館）より中国の部分をもとめたもの

＊当時の生活

以下、「聞き書き・日野の昭和史を綴る」より

・ 穴 「まだ、一番橋が無かった頃で日野の空襲の時、飛行機が七生中学校方面から飛んできて今の

オリエント時計工場の方へ爆弾を落としていった。延命寺（川辺堀之内）のそばへ200キロ爆弾が落ちて大きな穴が開いた。オリエントでは当時高射砲の弾を作っていたので狙われたらしい。あちこちに不発弾が落ち京王線上にも落ちた。」

- ・ 子供 「子供が珍しがって不発弾やかけらなどを集め危険だった。不発照明弾のパラシュートの紐を子供が引っ張ったため、着火して爆発した（照明弾だから明るくするのが目的ゆえ、それほど事が無かったが）。濡れむしろや水であわてて消火した。」
- ・ レールの弾 「北野～多摩御陵間の線路のレールは戦時中、取り外されて金属供出され、鉄砲のたまになったという。」
- ・ 木炭バス 「戦争中は木炭車のバスで登り坂はなかなか登れないので、乗客の半分位、男は降りてバスの後押しをした。下り坂は一丁前に動いた。」
- ・ 供出 「戦時中、農家は国に作物を供出しなくてはならなかった。供出の量は町単位、部落単位や個人単位でそれぞれ決まっていた。程久保のある農家では、サツマイモの乾燥したものや、バレイショ、ソバなどを供出していた。十とれたうち、六、七割は供出していた。およそ自分のうちで食べる分以外は供出した。」
- ・ 衣生活
「洋服はお古を着た～ 『生めよ増やせよ』で兄弟姉妹も多かったから、子ども達は上の子のお古（お下がり）を少し位つぎがあたっていても平気着た。新しいものを着てくる子もいなかった。街は物品統制で商店も大戸を降ろしているの、自給自足ができる人はいいが、たまに新しいものを着てくると、皆につまはじきされ、いじめられた。」
- ・ 食生活

「主食・米・副食など配給になった～ 配給物は、米・麦・さつまいも・塩・大豆・すけそうだら
の塩漬け・酒・たばこ等。米にさつまいも、又は大豆、または砕いたとうもろこし等をまぜて、ときにはおかゆにして食べた。米にひき割り麦を三割まぜたのがこの辺の常食だった。・・」

季節の野草、魚等も貴重な食料になった～ のびる、はこべ、南瓜、胡瓜、里芋、ぬか漬け用の野菜など、たにし、しじみ、どじょう、鮎（量が少ないので焼き干ししてだしに使った）、にわとり（卵）すべて大切な食料だった。

おやつ（季節の野菜類・川魚など）～どどめ（桑の実）つばな（ちがやの芽）河原苺、へび苺、ときとき（竹筒入り梅干しつつき）、赤蛙、ひきがえる（どた坊という、黒川付近でとれたどた坊を捕り、皮をむき、焼いて食う。）

弁当～ 麦飯 弁当箱のふたをあけると麦が真っ黒に見え、恥ずかしくてふたで隠して食べた。さつま芋、馬鈴薯、南瓜、おやきなど。家の近い子は帰宅して食べた（おたべ）。昼食時になると教室から出ていった子も増えた。」

③ 日野と空襲

* 米軍のマリアナ諸島制圧以降、多摩地区の軍需工場は米軍の爆撃の目標となり、昭和19（1944）年11月24日の中島飛行機（武蔵野市）の空襲を皮切りに、立川飛行機や八王子に対する爆撃が相次いだ。

日野市では 昭和20（1945）年2月17日 4月4日 7月8日、8月1～2日の4回空襲があった。

このうち、4月4日の空襲では、上田で2名、宮で1名、下河原(現日野警察署付近)で12名、東町（立日橋付近）で13名、計28名の犠牲が出ている。また、対岸の立川市富士見町四丁目の山中坂にあった防空壕で避難していた42名全員が爆死するという被害が出ている。

8月1～2日の空襲では日野重工業付近で2名の死亡が確認されている。この日の八王子空襲では八王子市街の八割が焼失し、数百名の死傷者が出ている。

以下「日野市史 通史編四」 谷 春雄氏のコラムより

4月4日の日野の空襲

昭和20年4月3日午後11時頃、この夜も空襲警報が発令された。当時は連日の空襲で、就寝の時も服を着たまま過ごしていたので、防空頭巾や必要なものを持って、家の庭や近所が共同で作った防空壕に入る準備をし、空を見上げて状況を見ていたが、12時頃この空襲警報も解除された。ほっとして再び眠りについたらのもつかの間、突然ド、ド、ドという連続した爆撃音に飛び起きて庭に出ると、あたり一面が照明弾で真昼のように明るく照らし出されていた。すぐに母や妹たちと庭先にあった防空壕に入った。

爆発音は数度続き、壕に入らず物陰で外の様子を見ていた父が、東の方が真っ赤だと言った。やがて爆発音も聞こえなくなったので、私も防空壕を出て赤く燃える東の方を見ていた。もう、空襲も終わりだろうと思われたので、当時召集によって壮年の人が少ないため60歳を過ぎて警防団員であった父に代わり、消火作業へ出た。

現在の日野図書館の裏にあった消防器具置場から、腕用ポンプを曳き出し、次々に集まってきた人と甲州街道へ出た時、またも連続する爆発音がした。このとき直接被災したのは、下河原・東町地区であったが、前回の爆撃から間があったため、人々は空襲が遠のいたと防空壕を出て、燃える家の中から必要なものを持ち出したり、焼ける家の消火作業に当たっていた。また、近隣の直接被害を受けなかった人も、救助や消火作業に駆け付けていた。そこへ最後の爆撃があったため、被害をより一層大きくした。

(中略) 消火作業も終わりかけた頃、下河原全体のような様子を見て廻った。万願寺は通じた古い街道の両側に家が並んだような下河原の集落は、中央部分の数件の家が直接被弾をまぬがれ、東の数件と西の数件が破壊され焼失していた。

だんだん夜も明けてきて見ると、下河原の北側の田んぼには、直径5、6メートルぐらいの穴が10メートルぐらいの間隔で、5、6か所、東町方面へ向けて口をあけていた。(下略)

④ 日野と満蒙開拓

現在の東京都七生福祉園、都立七生養護学校の地に、満州への農業移民を養成するために訓練施設、東京拓務訓練所があった。(当時、各府県に一か所開設されていた。)

昭和14(1939)年4月に開所され、式拾町歩(198000㎡)の広さに日輪兵舎と呼ばれる円形で円錐形の屋根を持つ建物4棟と本部および講堂一棟、バラック建て炊事場と浴場があった。

修業期間は6か月。農業科、教練、皇道精神の他、満州移民事情といった科目もあった。訓練所では起床ののち朝の礼拝として君が代を歌い日の丸を揚げ、「天皇陛下弥栄」三唱、綱領斉唱、参拝、体操、その後朝食となった。午前は学科と作業、午後は5時半まで作業、夕食、入浴の後、夜の行事として礼拝、参拝、日の丸降下、挨拶その後就寝、という1日であった。

入所資格は満20歳の徴兵検査終了したものから45歳までのものとなっていたが、実際には戦争による転廃業者など農業未経験者が多かった。また、府下の高等科生徒たちを集めて2泊3日の訓練も行われていた。

以下、「聞き書き・日野の昭和史を綴る」より

(前略) 昭和15年8月、夏休みを利用して、八王子、南多摩地区の小学校の高等科二年の内から二・三男が集められ、二泊三日の訓練が実施された。私も次男坊という立場から、この訓練に動員された。

日野小学校からこの訓練に参加したのは五名で、当日は朝学校に集まり、湯沢谷戸の奥の雑木林の中にあった訓練所まで歩いて行った。この日各校から集まった訓練生は四十人ぐらいだった。

(中略) 当時この訓練所にどのような指導員がいたか覚えていないが、まだ畑も作物も作られていなかったので、畑を作るために丘を崩して平地にする作業が主で、三角形をした重い開墾鋤を関東ロームに打ち込み、これを崩し、崩した土を運搬するという作業が三日続いたと記憶している。(後略)

八王子城主北条氏照と三沢十騎衆

1. 教材化の意図と概要

「戦国動乱について、戦国大名が角地に割拠し、自らの力で領国を支配して分国法を定めたり、城下町を形成していったことなどに気づかせる」こと、また、「身近な地域の歴史を調べる活動を通して、地域への関心を高め、地域の具体的な事柄とのかかわりの中で我が国の歴史を理解させるとともに、ら騎士の学び方を身に付けさせる」ことが中学校学習指導要領の内容では求められている。

そこで、郷土日野地域においては戦国大名の領国支配について、関東一円を支配下においた北条氏の勢力拡大を滝山城主、後に八王子城主となり、日野地域を治めた北条氏照の行った軍事行政（分国法）を日野の土方家に残る史料等から理解させ、後の織田・豊臣による統一事業や、近世社会への枠組みに向かって社会が大きく変わってきていることを具体的に学ばせたい。こうした郷土に残る中世文書や文化財等を調べたり、理解したりする学習をとおして、当時を生きた先祖に思いを馳せ、郷土日野の歴史に関心を高めるとともに、郷土の具体的な事柄との関わりにおいて我が国の歴史理解を深め、歴史の学び方も身に付けさせたい。次に示す小単元名「民衆の成長と戦国大名」で教科書や、社会科副読本の内容を補うものとして郷土教材＜八王子城主北条氏照と三沢十騎衆＞を活用したい。

2. 指導計画

○中学校社会科

○小単元名「民衆の成長と戦国大名」 1時間

(社会科副読本「のびゆく日野」P31～32)

(1) 小単元のねらい

- 農業などの諸産業が発達し、畿内を中心とした都市や農村に自治的な仕組みが生まれたことを理解させるとともに、武士や民衆の活力を背景にして生み出された新たな文化の特色について考えさせる。
- 戦国の動乱については、戦国大名が各地に割拠し、自らの力で領国を支配して分国法を定めたことや城下町を形成したことなどに気づかせる。

(2) 小単元の指導の流れ

- ①村の自治
- ②応仁の乱
- ③戦国大名の登場と城下町

○教科書（歴史的分野）「戦国大名の登場と城下町」では、

戦国大名は、…領国の武士を組織し、強力な軍隊をつくりました。山に築いていた城を、交通の便のよい平地に築くようにして、城下に家来を集め、商工業者を呼び寄せて城下町をつくりました。また、独自の分国法を定めて武士や農民の行動を取りしまり、荘園領主の支配を認めず、領国を統一して支配する新しい政策を展開しました。

と、戦国大名の領国支配の様子が書かれている。

○中学校社会科副読本「のびゆく日野」の「3，戦国時代」では、

戦国時代に日野を治めるようになった大名は誰でしょう。

北条氏は三代目の氏康の頃に勢力を強めます。

当時の関東地方は北に越後の上杉謙信、西に甲斐の武田信玄という日本有数の戦国大名に囲まれていました。

氏康は関東を上杉、武田から守るために多くの城を設置し、守りを固めました。氏康の次男、氏照が城主であった八王子城は…戦国最大の山城といわれました。八王子城主の氏照は八王子周辺に宿場をつくらせましたが、そのうちの一つが後の日野宿になっています。

…豊臣秀吉全国統一したとき、最後まで抵抗したのが北条氏でした。

と、関東一円に勢力を広げていった北条氏康の次男、八王子城主北条氏照を取り上げて、城の建設、領民支配の様子が書かれている。

○「郷土日野」指導事例 第1集（H17年度日野市立教育センター郷土教育推進研究委員会）P38では、教科書（日書版）「内乱と下克上の時代」の内容と、副読本「のびゆく日野の戦国時代」との関連づけをした指導計画を作成している。

●そこで、この時代の授業展開にあたっては、

次に示す＜資料1＞、＜資料2＞、＜資料3＞、＜資料4＞等を効果的に活用し、戦国時代における「ふるさと日野」を支配した北条氏照の行った領内支配形態を、日野武士団の編成、分国法、治水工事等の具体的教材から、全国に及ぶ戦国大名の領国支配に関心を深めていき、武田・上杉等と北条氏、豊臣秀吉と北条氏との関わりを身近なものとして理解させたい。

＜資料1＞

北条氏照（1540—1590）

北条氏康の三男、氏政の弟。

滝山城主の大石定久と養子縁組、正室は定久の娘、聡明で武勇に優れ、兄氏政を助ける。

大石氏の家臣、南一揆の武士団、日野武士団、三沢十騎衆の組織化を目指した。

戦国時代に三沢の郷が成立したといわれている。氏照はこうした各郷村をしっかりと把握していった。

氏照軍団を組織し、下総国府台（千葉）をはじめ関東一円を手中に収め、勢力拡大に大きく寄与した。（1587年頃には伊豆、相模、武蔵、上野、下総、下野にも君臨、全国で屈指の戦国大名となった。）

1561年 辛垣城の三田氏と戦う。

1564年 里見氏と戦う。

1568年 武田信玄下の小山信茂らの軍勢によって高尾山麓の廿里（とどり）で敗退。その後、武田勢に攻められ滝山城は三の丸まで陥落、このとき、氏照と勝頼は槍を合わせた
と伝わる。

平山城の滝山城が防御面で不利であることを悟り、山城の八王子城を築く。

1569年 上杉氏と越相同盟の実現。

1582年 新たな軍事体制の創出（郷村の多数の農民を軍勢に編成）

1588~1589 関東に威を張る小田原北条氏と豊臣秀吉の対決が深まる。

1590 年 豊臣秀吉の小田原攻めで徹底抗戦を主張。

居城である八王子城には重臣をおいて守らせ、自身は小田原城にこもる。
兵力の不足を補うために僧侶や芸人まで召集された。

<資料 2>

三沢十騎衆

高幡の土方春家の三沢衆文書八通によれば、中世戦国時代、小田原北条氏の支城八王子城に仕える三沢十騎衆と称する武士団がいたことや、土方弥八郎、土方平左衛門尉、土方喜四郎等の幹部の名が記されている。

「とんとんむかし」菊池正氏著

三沢十騎衆の一人、土方弥八郎が三沢の池に小梅を根づかせた。その小梅は美味しくて滋養もあり、病人によいという評判であった。

そんなとき、一人娘が鬱気（うつき）を患い困っていた江戸日本橋の豊島屋の主人がその話を聞いて三沢の小梅を取り寄せて食べさせたと、元気になり、おまけに美肌にもなって、“小梅小町”と呼ばれるようになったという。

<資料 3>

市域に残る北条氏照の文書―「土方文書」の三沢衆史料―

参考文献 日野市史中世編

- 1, 1566 年 三沢衆宛北条氏照印判状
今度の戦争に甲に立物（前面の飾り）を付けていなければ所領を没収する。
いかにもきらびやかに装着して走りめぐる（精励する）べきである。
- 2, 1580 年 土方弥八郎宛北条氏照印判状
一、氏照は西口（駿河国深沢城にて武田勝頼との合戦）に御用があつて今日中に出発する。重ねて命令次第夜中を嫌わず滝山宿に出向くこと。
一、総軍勢が出発して陣取りをする。在所に帰るならば処罰する。滝山城にしっかり陣取り、重ねて命令次第出発せよ。そのとき滝山宿に不在というようなことがあれば処罰する。
- 3, 1587 年 十揆衆宛横地吉信判物
三沢郷における各々の所領が少ないにもかかわらず、走りめぐるので、大途（氏直）が加増を裁定した。よく支配を全うしていよいよ忠節を励むべきである。この上にも扶持を加えるであろう。
- 4, 1588 年 三沢宛北条氏照印判状
一、今度は大途の戦争であるから八王子城根小屋（城下の集落）の守備を申しつける。三沢郷に住む百姓でも侍でも男ほどたるものは出向いて走りめぐるべきである。（略）
- 5, 1588 か 89 年 土方善四郎宛北条氏照印判状
小田原から陣触れを仰せ付けられた。重ねて命令しだい出発せよ。今度は小旗を装備するように決まった。古い小旗を持ってはならない。小旗を新調せよ。そのほかの諸武器はかねて軍法の通りに準備し、重ねて命令次第出発せよ。
- 6, 1588 か 89 年 土方平左衛門尉宛直重※（姓不明）判物
三沢郷を十揆衆に頂戴して、各々へ配分させた。給地として下されたのであるから、仲介は必要ないと思われるが、事情が分からないと称し、

柄が入り組んでいるから、紛争を起こさないように相談してはしりめぐるべきである。公方へのご奉公は、私も祝着に思っている。そのためこの一筆を遣わす。もしあれこれ生じたならば、よくよく談合することが肝要である。

(※直重・檜原城主平山伊賀守といわれる)

この土方文書から、16世紀後半、三沢郷に三沢十揆衆という武士集団が土方氏を中心に存在していたことがわかる。

三沢衆の特徴は在地性にあり、前代の上杉管領体制下において、その家臣大石氏や平山氏や高麗氏のもとにあって武装した上層農民が、後北条氏の領国化の親展に伴い再編された形態といわれている。

参考

南北朝・室町時代の日野の様子

1333年 新田義貞の鎌倉攻めで鎌倉幕府崩壊。

1339年 足利（尊氏）方の有力武将高師冬（武藏国守護、後に鎌倉公方の補関東執事）の常陸出陣。

高師冬軍の主力は多くの武藏の人々であった。従軍した中に山内経之（高幡不動胎内文書の中から経之の家族に宛てた書状がみつかるといわれる）がいる。

経之は日野の土淵郷に所領をもつ武士と考えられている。

<資料4>

「佐藤文書」の竹木伐採禁制—1586年北条氏照の禁制—

参考文献 日野市史中世編

当郷において、竹木を切る儀、停止せざるおわんぬ。誤りても一本なりとも切る者これあるにつきては、従類共にはり付けにかけらるべき旨、仰せいださるものなり。よつてくだんの如し。

天正14年（1586）三月九日

日野惣郷並びに立川領東光寺堺より谷、町屋まで

平野豊後守

福島右近

竹間加賀入道（※）

（※）加賀塚

戦国時代、この地を治めた加賀入道の墓。日野市栄町にある。北条氏照に仕えた武将。

1590年、豊臣秀吉が小田原攻めを行い、7月に北条氏を滅ぼす5ヶ月前の2月8日に切腹したと伝えられる。

1940年、加賀入道の子孫が建てた墓碑と、自然石の2基が立っている。

日野用水をつくった佐藤隼人と北条氏照

美濃の国からやってきた上佐藤家の先祖である佐藤隼人は、1567年（永禄10年）、滝山城主の北条氏照より引き受けた罪人をつかって日野用水をつくりました。この日野用水は日野本郷の基礎を作り、400年以上たった今も同じ場所をながれている。

参考文献 日野市観光協会ホームページ「日野用水を歩く」



2. 郷土資料館と学校教育

～旭が丘小学校創立 30 周年展示への協力～ 日野市郷土資料館

今年度郷土資料館では、旭が丘小学校創立 30 周年記念での展示および、七生中学校 1 学年校歌合唱コンクールでの校歌作詞者巽聖歌の紹介といったように、学校行事において郷土日野を伝えるために小中学校に協力をした。ここでは、旭が丘小学校の展示を具体的に紹介し、郷土資料館所蔵の郷土資料がどのように活用されたのか報告する。

1 地域を核にテーマ設定した事業

郷土資料館では、日野市域を中心に調査・資料収集、展示講座といった普及活動などを行っている。歴史・自然など、時代もジャンルも幅広く紹介することで、地域の再発見・再認識の機会を提供してきた。特に最近では、詩人巽聖歌（旭が丘）、真慈悲寺（百草）、「勝五郎生まれ変わり物語」（程久保）、自然観察会「雑木林探検隊」（高幡台）など、特定の地域が核となる事業を展開してきた。日野市から更にエリアを狭めた地域を対象とすることで、さらに「郷土」への関心が高まり資料館に足を運ぶようになった人も見られる。

小中学校の地域調べにおいても、身近な地域に焦点をあてている。また、地域の「歴史上の人物」は、クラスメイトの先祖であったり、近隣住民であったりする訳で、自分たちも、歴史を担う存在であるという実感ももてるのではないだろうか。今回の旭が丘小学校内の展示でも同様に「旭が丘」という地域を主題として展示を構成した。

2 旭が丘小学校創立 30 周年記念事業展示

旭が丘小学校は、平成 19 年に創立 30 周年を迎え、10 月 27 日に記念式典が開催された。あわせて 10 月 16 日から式典まで、児童会室にて展示を行うこととなり、旭が丘小学校から資料館へ協力依頼をいただいた。旭が丘小学校の開校当時などの写真パネル、過去の周年記念誌、「日本緑化コンクール特選」を受賞した敷地内雑木林での活動などについて、同校教職員が壁面に展示した。郷土資料館からは「旭が丘地域」の自然・歴史・文化について、写真や実物資料等を展示した。

同校では、18 クラスの全校児童の展示見学時間を調整し、3 日間資料館学芸員 2 名が交替で解説を行った。また、地域住民や記念式典参加者も見学に訪れ、10 日間の展示が最大限に活かされた。

以下に郷土資料館が提供した展示物の概要を記す。解説用パネル類は新規作成したもの、既存品などを併せて活用した。また、展示資料情報、参考文献、所蔵先など教材として今後も活用できるような情報も併せて紹介する。なお、特記のないものは郷土資料館所蔵資料である。

（1）「旭が丘」の始まり

平山台土地区画整理事業が終了し、昭和 48 年に新たな地名「旭が丘」が定められた。住民の投票により決められた名称である。それまでは西長沼・栗ノ須・日野・豊田・平山などが混在し、中には高幡や南平といった浅川の南部の飛び地も含まれていた。地域学習を行う 6 年生には、すでに「旭が丘」の地名について調べた児童もいた。

【展示資料】 写真パネル しゅん功記念碑 旭が丘中央公園内 昭和 48 年（1973 年）建立

平山台土地区画整理事業の竣工記念の石碑。多くの児童が石碑を目にし、碑の意味を知っている児童もいた。地域の歴史を「刻み」伝える石碑は、地域学習の素材として生きていることが確認された。

※郷土資料館では、今までの調査成果や、「日野の歴史と民俗の会」が中心となって調査した、日野の石碑についての写真や情報カードを保管している。平成 18 年日野市郷土資料館企画展『日野の石



展示風景

碑とサイノカミ（どんど焼）写真展』リーフレット、日野市郷土資料館『日野石碑調査報告書』（作成中）が参考となる。もちろん、現地の石碑を是非訪ねて欲しい。

【展示資料】 パネル「広報ひの」昭和 45 年、48 年

「広報ひの」昭和 45 年 5 月 15 日号「住みよい町づくりめざし区画整理事業すゝむ」、昭和 48 年 7 月 1 日号「平山台土地区画整理区域が新しく『旭が丘』の町名に」の記事がある。

※「広報ひの」には市政情報のほか、日野の民俗や昔話などが連載され、現在は「日野の歴史と民俗」を郷土資料館が担当している。「広報ひの」には縮刷版がある。

（２）日野台地のなりたちについて

地形は土地利用や地名に反映され、遺跡、工場進出、段丘崖の雑木林といった、日野台地の歴史の基盤となっている。

【展示資料】 図パネル 日野台地を南側の上空から立体彩色図

立体地形のコンピュータグラフィックスは、国土地理院の数値標高データを「カシミール 3D」で加工して作成した。CD 付書籍やネット上で手軽に入手でき、使用時に経費はかからないが、地図利用のルールは国土地理院のホームページで確認できる。※今回新規に図を作成したが、改善の余地がある。

【展示資料】 地図パネル 日野市水系図

「日野市水系図」は、日野市が発行したもので、日野市の白地図に、河川・水路が青色で記されている。スケールは 1/10000。今回は、水路網図により、河川によって削られた日野台地がくっきりと浮かび上がることを示した。※教育センターでパネル化、資料館でも同図は保管。

（３）日野台地に暮らし始めた人々 ～日野台地の遺跡

対象範囲を、旭が丘だけでなく、日野台地全体とすることで、より濃い内容で遺跡を紹介したい。日野台地には、神明上遺跡（神明）、山王上遺跡（多摩平）、七つ塚遺跡（新町）など、およそ 1 万 5 千年前の旧石器に始まり、縄文時代の住居、古墳時代から奈良時代にかけての横穴墓など、台地のメリットを生かし、幅広い期間に人々が暮らした足跡が残されている。

【展示資料】 写真パネル 山王上遺跡で見つかった旧石器時代の石器作りのあと

多摩平の山王上遺跡で、赤土（関東ローム層）の中から、今からおよそ 1 万 2 千年前の石器作成時の石の破片が発見された、発掘の様子もわかる写真。

【展示資料】 写真パネル 神明上遺跡で見つかった横穴墓

神明上遺跡は日野市役所周辺の遺跡である。平成 19 年春に、国道 20 号日野バイパスが開通した。工事に先立ち遺跡調査が行われ、今から約 1300 年前に造られた横穴墓が発見された。台地の縁に掘られた横穴の中には人骨が残されていた。

※遺跡関連の写真パネルは、文化スポーツ課文化財係や郷土資料館にて作成・保管している。郷土資料館がまとめて相談窓口となる。

（４）地図や航空写真で見る旭が丘

【展示資料】 旭が丘に競馬場があった！ 多摩八王子競馬場 写真パネル 競走馬、競馬場位置の図、昭和 22 年空中写真

日野第四中学校や首都大学東京日野キャンパスのある地には、かつて「多摩八王子競馬場」があった。昭和 3 年に八王子の上中野町付近に開設された競馬場が手狭となり、昭和 9 年、旭が丘～日野第四中学校あたりに移転。昭和 24 年に競馬場としての幕を閉じ、その後、競走馬の育成・調教目的の牧場となったが、昭和 40 年にその牧場も廃止された。

※競馬場風景写真（個人蔵写真の複写）および空中写真（国土地理院発行）は郷土資料館所蔵。また、教育センター図書室では競走馬の写真をパネルにした。競馬場の位置図など競馬場については、八王子市郷土資料館研究紀要『八王子の歴史と文化 6 号「悲運の多摩八王子競馬場」』、日野市生活課『平

山をさぐる一鮫陵源とその時代』が詳しい。

【展示資料】大きな工場が日野に来た パネル 昭和 15 年日野町全図、空中写真 1971 年

日野町は町の財政再建、雇用促進のため大工場を誘致し、昭和 11 年から 18 年にかけて、吉田時計店日野工場（オリエント時計）、六桜社日野分工場（コニカミノルタ）、東京自動車工業（日野自動車）、富士電機製造（富士電機）、神戸製鋼東京研究所（神鋼電機）が日野に移転し、同時期に、日本篩絹（NBC）、羽田ヒューム管（ハネックス）といった会社の工場が日野にできた。工場進出に伴い、宅地も増え町の様子が変わっていった。

※（ ）内は現在の社名、会社がグループに分かれている場合は代表の名称、「株式会社」は省略。

※昭和 15 年日野町全図（複写）、空中写真（国土地理院発行）は郷土資料館所蔵。また、昭和 15 年日野町全図（複写）教育センターでパネル化している。

（５）日野と養蚕

明治から昭和初期にかけて、国策として生糸輸出が行われ、日野市域でも、現金収入となる養蚕業が盛んだった。日野の桑畑の面積を地図上で比較すると、大正時代に最盛期を迎えている。旭が丘に限らず市内では養蚕が盛んであったが、日野台地は桑畑が広がっていたこともあり、地域性を考慮して養蚕をテーマとした。



⑤養蚕資料を見学する児童

【展示資料】パネル 蚕の飼育・蚕糸試験場・桑畑の推移。企画展「日野と養蚕」パネル。仲田「農林省蚕糸試験場日野桑園」桑畑写真 昭和 51 年撮影、昭和 55 年に筑波へ移転した。

【展示資料】養蚕関連民具 桑つみ爪、桑つみ籠、桑刻み包丁、生糸、繭、絹布、糸巻、糸網、ざぐり、ひき盆、竹ごのめ、給桑台、マブシ

※平成 3 年開催企画展「日野と養蚕」図録（日野市ふるさと博物館発行）

（６）雑木林の自然

旭が丘小学校は敷地北側が段丘崖となっており、その斜面は雑木林として整備され、児童の学習活動の場としても活用されている。人々が育成し、薪炭などの資源林として活用してきた雑木林。雑木林が多様な環境をつくり、動植物の生息環境としても豊かなものとなったことを紹介。

【展示資料】キツネ剥製、タヌキ剥製、昆虫標本（カブトムシ、クワガタ、カミキリムシ、セミ類、蝶など）、クヌギ、コナラ、アラカシ、シラカシ、スダジイなどの“どんぐり”を紹介

（７）たき火の詩人 異聖歌を中心に日野の文学者

童謡「たき火」を作詞した異聖歌は、岩手県生まれ。昭和 23 年に日野町東大助（現在の旭が丘）に転居し、68 歳で亡くなるまで日野に居住した。聖歌は多くの作品を残しただけでなく、七生中学校や日野第四小学校など校歌の作詞、作文指導などと幅広く活動し、児童文学の発展に大きく寄与した。「たき火まつり」が旭が丘中央公園で毎年開催され、聖歌は今も旭が丘地域の人々の心をつないでいる。

あわせて、ゆかりの文学者として、聖歌と同時期に日野台地に居住した、伊藤整、田中冬二、聖歌が支援し育てた児童文学者新見南吉を紹介した。南吉は「ごんぎつね」などの作品で知られる。聖歌は、南吉の才能を見出し支援するとともに、彼の没後には著作を世に広めるために奔走した。

【解説パネル】特別展「異聖歌生誕百年記念展示」より 展示パネル 5 点

「雲雀のこえは」（多摩八王子競馬場を描いた詩）、「焚き火」の絵本や手ぬぐい、新見南吉作品「ごん

ぎつね」が掲載された教科書。

3 おわりに

全校児童から記念式典の来客者までが見学に訪れた。小1～大人までを対象とした解説パネルの作成は困難で、クラス毎の解説で補うしかなかった。また、展示だけに終らせずに参考文献、解説など、教材としてコンパクトな形で学校に残すのが望ましいが、今回は既存のパネル活用が多く、その場の展示は可能でも、展示内容をまとめるまでは力不足でできなかった。本稿にて展示概要をまとめることで参考にしていただき、反省点は今後に生かしたい。資料館で保有する郷土教材を活かすためにも、学校から様々な提案をいただきたい。

【日野市郷土資料館利用案内】

開館時間：午前9時～午後5時

休館日：月曜日（祝日の場合はその翌日）、年末年始、臨時休館 入館料：無料

交通：「高幡不動駅」①番乗り場バス 百草団地方面行「高幡台団地」下車徒歩5分

「高幡不動駅」から徒歩20分 / 多摩モノレール「程久保駅」下車徒歩7分

〒191-0042 日野市程久保550 TEL：042-592-0981 FAX：042-594-1915

E-mail museum@city.hino.tokyo.jp URL：<http://www.city.hino.tokyo.jp/museum/>

※郷土資料館・文化スポーツ課による郷土学習支援については、郷土資料館がまとめて窓口となります（郷土資料館の学芸員は文化スポーツ課も兼ねています）。

団体での来館 希望の資料や見学方法など当日の流れについて事前に相談します。

資料の貸し出し 授業などに用いる資料（実物資料、写真パネルなど）を貸し出します。

出張展示・出張授業 教室や屋外（緑地・史跡・復元住居等）に学芸員が出張説明します。

調べ学習・問合せ対応 展示や写真・図書冊子などを用いた「調べ学習」の支援をします。

職場訪問・職場体験 郷土資料館の仕事について、施設見学や業務の体験が可能です。

郷土資料館では様々な方法で児童・生徒の学習を支援しています。まずは、お電話にてご相談ください。リーフレット「小中学校のための利用案内」および、『「郷土日野」指導事例第1集、第2集』（平成17・18年度発行）もご参照ください。

3. 図書館と学校教育

平成 20(2008)年

市内小中学校 先生方のための

市立図書館利用のご案内

児童サービスのご紹介とお願い

日野市立図書館では、ひとりでも多くの子どもたちが読書の楽しみに出会えるよう、日々の活動を推し進めています。また、好奇心の旺盛な子どもたちに、様々な知識や情報を提供できるように、資料の収集を図っております。先生方におかれましても、宿題・調べ学習・読書指導等で、より市立図書館を活用していただきたくご案内いたします。

<市内図書館の一覧>

館 名	住 所	電話	FAX
中央図書館	豊田 2-49	586-0584	586-0579
高幡図書館	三沢 4-1-12	591-7322	594-2655
日野図書館	日野本町 7-5-14	584-0467	587-0789
多摩平図書館	多摩平 2-9 多摩平ふれあい館1F	583-2561	583-2573
平山図書館	平山 5-18-2	591-7772	591-7772
百草図書館	百草 204-1	594-4646	594-4647
市政図書室 (蔵書は行政・郷土資料のみです)	神明 1-12-1 (日野市役所内)	585-1111 (内線 1710・1711)	582-0914

* 開館時間等は各館にお問い合わせいただくか、図書館ホームページをご覧ください。

URL <http://www.lib.city.hino.tokyo.jp>



授業で図書を使っの学習をすることになった。図書館からまとめて本を借りたいが、どのような方法があるか？

📖 団体貸出のサービスをご利用ください。

A、ご希望の本を学校搬送便（毎週木曜日午後運行）で各校玄関までお届けします。

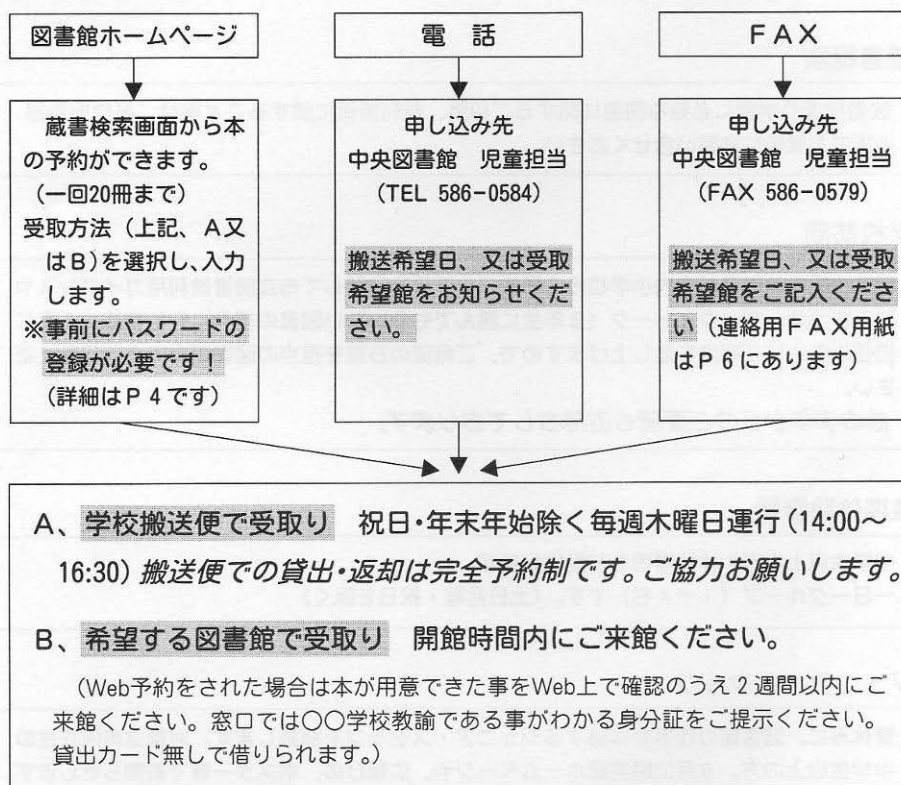
B、希望する図書館で、直接本を受取ることもできます。

本をそろえるのに時間がかかりますので、時間に余裕をもって

申し込んでください。

貸出期間は 4 週間です。

〈申し込み方法〉



その他のサービスのご案内



子どもたちに図書館で調べてくるよう課題を出したい

📖 調べ学習の本を探しに来た子どもたちに本の紹介をします。

事前に調べ学習の内容をお知らせください。

「せっかく本を探しに来たのに、全て貸出中・・・」ということにならないように、ぜひ事前にご連絡をお願いします。必要図書を取りおき、調べ学習に対応します。

連絡用FAX用紙 P 7 にあります。



施設見学・または授業で図書館に行きたい

📖 ご来館の日時を、お知らせください。

各館、施設の規模が異なり、一学年が一度に入れない館もありますので、ご了承ください。
(図書の貸出を希望なされる場合もお知らせください。) 連絡用FAX用紙 P 8 にあります。

読書相談

読書指導や学習に必要な図書に関するご相談、新刊情報に関すること等は、各館児童担当までお気軽にお問い合わせください。

学校訪問

毎年、図書館職員が市内小学校の3年生のクラスを訪問して市立図書館利用ガイダンスや、読みきかせ、ブック・トーク(3年生に読んでもらいたい図書の紹介)をします。4月に担任の先生にご案内を差し上げますので、ご希望の日程を担当の図書館までお知らせください。

他の学年からのご要望もお待ちしております。

職場体験学習

中学生以上の方の体験学習をお受けします。

一日グループ(1~4名)です。(土日月曜・祝日を除く)

ジュニア・スタッフ

夏休みに、図書館の仕事を体験するジュニア・スタッフを募集します。対象は市内在住の中学生以上の方。6月に図書館ホームページや、広報ひの、ポスター等でお知らせします。

パスワードの申し込み方法

〈図書館HPの蔵書検索画面から、希望図書の予約ができます〉

5ページの「申込み用紙」を使いFAXで中央図書館に申し込む



折り返し、**クラスIDナンバー** と **仮パスワード** が

日野市庁内交換便で 中央図書館より届く



日野市立図書館ホームページのパスワード変更画面で仮パスワードを
本パスワードに変更する



蔵書検索画面から図書の予約をする



A 学校搬送便希望の場合は **学校搬送専用**

B 希望館受取の場合は、**希望の図書館名** を 選択してください。

(ご来館時には、「日野市立〇〇学校教諭であることがわかる身分証」を
ご提示ください。貸出しカード無しで借りられます。)

パスワードは、当年度に限って有効です

(コピーしてお使いください)

WEB図書予約用 パスワード申込み FAX

日野市立中央図書館

業務係 児童担当行

図書館HPから図書の予約をしたいので、
パスワードを発行してください。

年 月 日

学 校 年 組

先生のお名前 _____

「パスワード」(暗証番号)は、他の人に知られないようご注意ください。
このパスワードを使ったサービスは、インターネット環境
を利用しておこなっています。

中央図書館 FAX586-0579

図書貸出申込み FAX (コピーしてお使いください)

日野市立_____図書館児童担当行

(このページを含め 枚送信)

送信者	学校 年 組 教科 () 担当教諭 TEL 042- -
図書の 受取り	A、 学校搬送で送ってほしい 月 日 搬送希望 B、 図書館窓口で受取 月 日 _____ 図書館にて受取希望

次のテーマで図書を用意して欲しい(具体的に書いてください)

教科名 ()

次の図書を用意してほしい

書名(シリーズ名)	著 者	出版社	備 考

調べ学習連絡用 FAX (コピーしてお使いください)

日野市立_____図書館児童担当行

送信者	学校	年	組
	教科 ()		
	担当教諭		
	TEL 042- -		

図書館で次の事柄について調べるよう指示を出したので連絡します。

授業時間内に図書館に ・行く ・行かない	月 日 _____図書館に 名
出題テーマ	教科名 ()

課題の提出期限	月	日
---------	---	---

図書館見学連絡用 FAX

(コピーしてお使いください)

日野市立_____図書館児童担当行

送信者	学校	学年
	クラス数 総 数	クラス 名
	教諭名	
	TEL 042- -	

希望日時

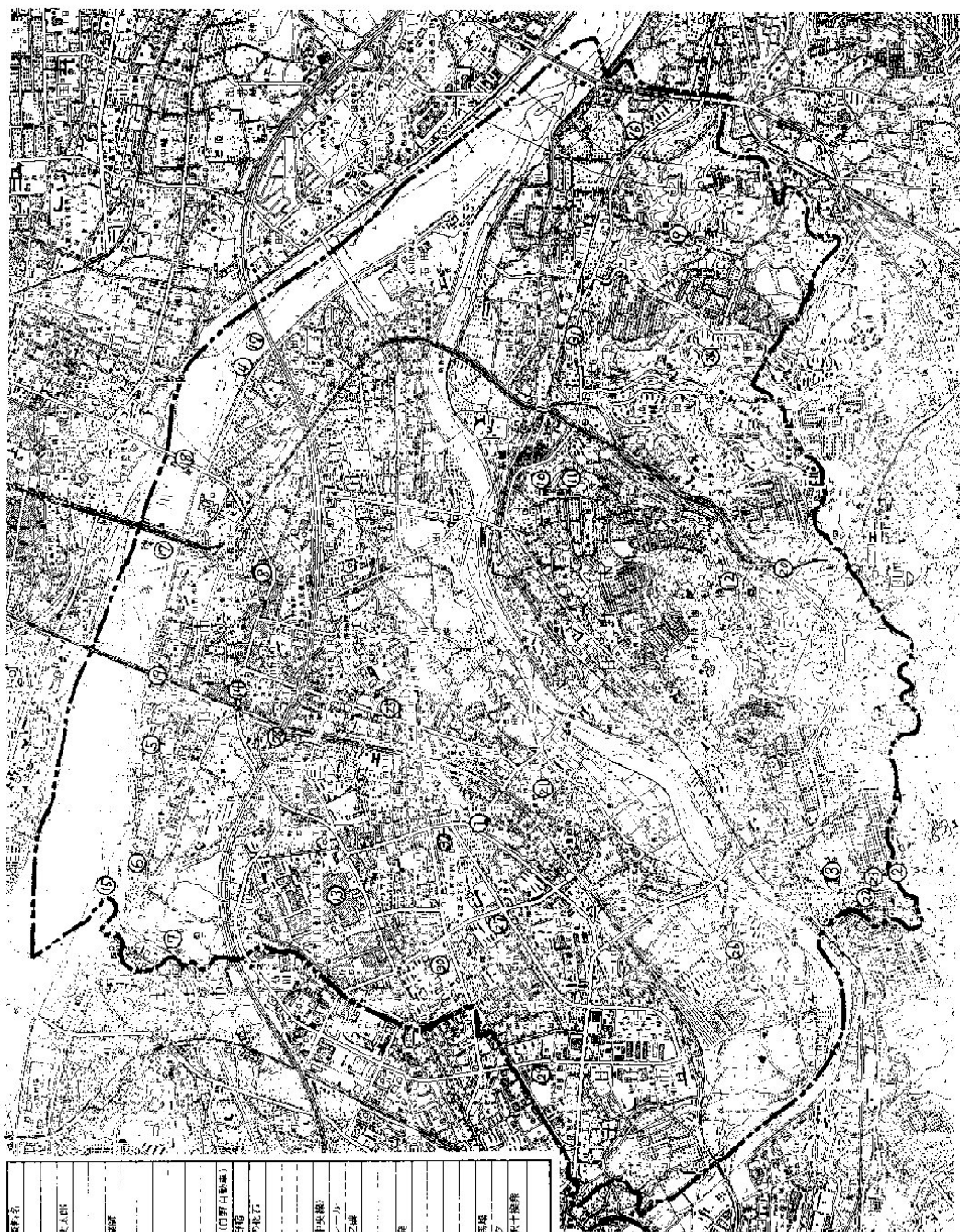
第一希望	月 日	時到着	時出発
第二希望	月 日	時到着	時出発
第三希望	月 日	時到着	時出発

4. 授業で使える「郷土日野」教材一覧

	指導事例 第1集	指導事例 第2集	指導事例 第3集
小1		*①黒川清流公園（生活）	*②平山城址公園の自然（生活）
小2		*①黒川清流公園（生活）	*②平山城址公園の自然（生活）
小3	単元「古い道具と昔のくらし」（社会）	*古い道具と昔のくらし（社会） *③平山陸稲と林丈太郎（総合） *日野の学校の歩み（社会） 学校の開校	*④多摩川の自然（総合） *東光寺に伝わる昔話 ⑤日野宮神社と「うなぎの神様」、⑥成就院と安産薬師、⑦七つ塚古墳 単元「わたしたちの東光寺」（社会）
小4	*豊田用水 単元「生き生き豊田用水情報局」（総合） 単元「古い道具と昔のくらし」（社会）	*日野の用水 単元「日野の用水」（総合） *⑧日野の煉瓦（社会、道徳） *百草周辺の文化財（社会） ⑨百草八幡宮、⑩高幡不動尊、⑪高幡城址、⑫多摩動物公園 *③平山陸稲と林丈太郎（社会、総合） 単元「地域の発展につくした人々」（社会）	*④多摩川の自然（総合） *多摩川と交通手段の移り変わり（総合） ⑬渡し、⑭日野橋、⑮甲武鉄道、⑯多摩都市モノレール 単元「多摩川をわたろう」（総合） *昔のごみ収集、ごみの活用、日野のごみ収集の変遷、ごみ量の変化 単元「ごみ0をめざす水と緑のまち」（社会）
小5	*新選組と日野とのかわり 単元「新選組まつりを調べよう」（総合） *昔の農具を用いた脱穀体験 単元「米作り 脱穀体験」（総合） *⑬日野に工場進出の背景と日野五社 単元「自動車を作る工業」（社会）	*③平山陸稲と林丈太郎（総合）	
小6	*徳川幕府と新選組 単元「明治維新をつくり上げた人々」（社会） *大昔の体験 土器・石器を中心に 単元「原始・古代の人々」（社会）	*③平山陸稲と林丈太郎（総合） *⑭甲州道中と日野宿（社会） *百草周辺の文化財（総合） ⑩高幡不動尊、⑪高幡城、⑨百草園 ⑨百草八幡宮、⑫多摩動物公園 単元「これがわが町！百草の歴史！」（総合）	*学校の歴史と地域（総合） 校舎・校名の変遷、⑰耕地整理記念之碑・区画整理 単元「発見！地域の宝」（総合） *②平山に伝わる昔と今 ⑱平山ゴルフ場、⑲平山城と

	* ⑮多摩川で大昔の化石をさがそう 単元「地層のでき方」 (理科) * ㉔七生丘陵の開発 単元「東京オリンピックと新しい日本」 (社会)	* ⑯落川遺跡と⑩高幡不動の胎内文書(社会) * 日野における自由民権運動 単元「明治維新をつくりあげた人々」(社会) * 高幡の歴史 単元「高幡プロジェクト(高幡のまち)」(総合) * ㉕復原住居<中央公園>(社会) * 日野の学校の歩み(社会、総合)	平山季重、㉖鮫陵源 単元「わたしたちのまち平山」(総合) * 日本の歴史と日野の歴史 新選組、自由民権運動 単元「明治維新をつくり上げた人々」
中 1	* のびゆく日野の活用 地形図、東京の中心部と郊外、日野の産業 単元「身近な地域を調べよう」(地理)	* ㉗多摩平団地の今と昔 単元「身近な地域を調べよう」 (地理) * ㉘坂西横穴墓群 単元「身近な地域の歴史」(歴史) * ㉙多摩八王子競馬場 昭和35年頃の旭が丘地域のようす(地理) 単元「身近な地域を調べよう」(地理)	* 身近な地域から見た人口集中 単元「身近な地域を調べよう」(地理) * コニカミノルタの今と昔 ㉚コニカミノルタ、⑬日野自動車、 小単元「郊外の地域的特色」 (地理)
中 2	* 地域の職場で将来の生き方を考える 単元「他者から学ぶ」 (総合)	* ㉗多摩平団地の今と昔(歴史) * 日野における自由民権運動(歴史)	* 戦時下の日野 軍需工場と日野、日野の戦争遺跡 単元「近現代の日本とアジア」(歴史) * ㉛八王子城主北条氏照と三沢十揆衆 小単元「民衆の成長と戦国大名」(歴史)
中 3		* ㉗多摩平団地の今と昔(公民)	
道徳	* 校章・校歌(小学校3年～中学校3年)	* ③平山陸稲と林丈太郎(小学校)	
総合		* ⑫多摩動物公園(中学校) 題材名「日野の宝―地域につくした人々―」	
選択	テーマ「日野の歴史を調べる」 (中学校社会)	* ①黒川清流公園と㉚多摩平の森(小学校)	* 昔のごみ収集、ごみの活用、日野のごみ収集の変遷、ごみ量の変化 (小・中学校)

○で囲んだ数字番号は、折り込み地図上の番号と合致している。



番号	地名・施設名
1	東山神社公園
2	東山神社公園 (園)
3	山崎神社 (山崎神社)
4	山崎神社 (山崎神社)
5	山崎神社 (山崎神社)
6	山崎神社 (山崎神社)
7	山崎神社 (山崎神社)
8	山崎神社 (山崎神社)
9	山崎神社 (山崎神社)
10	山崎神社 (山崎神社)
11	山崎神社 (山崎神社)
12	山崎神社 (山崎神社)
13	山崎神社 (山崎神社)
14	山崎神社 (山崎神社)
15	山崎神社 (山崎神社)
16	山崎神社 (山崎神社)
17	山崎神社 (山崎神社)
18	山崎神社 (山崎神社)
19	山崎神社 (山崎神社)
20	山崎神社 (山崎神社)
21	山崎神社 (山崎神社)
22	山崎神社 (山崎神社)
23	山崎神社 (山崎神社)
24	山崎神社 (山崎神社)
25	山崎神社 (山崎神社)
26	山崎神社 (山崎神社)
27	山崎神社 (山崎神社)
28	山崎神社 (山崎神社)
29	山崎神社 (山崎神社)
30	山崎神社 (山崎神社)
31	山崎神社 (山崎神社)
32	山崎神社 (山崎神社)

<Ⅲ>

資 料

調査集計と考察

学校が保管している

郷土資料に関する調査

学校及びその周辺地域の航空写真

日野の用水や湧水、水車

学区域の特徴となる自然、歴史、文化

◎ 学校が保管している郷土資料に関する調査（平成 19 年 9 月調査）

郷土教育推進研究委員会では、郷土教材の収集・開発を進めていく一つとして、日野市の各小・中学校に次のような目的で、保管する資料について調査をお願いした。中学校区単位、年代別にしてまとめることにした。

< 目的 >

- 1、土地利用の変遷を地図の他に航空写真を活用することで地域の具体的景観をつかむことができる。
- 2、郷土に関する資料を公開することで、隣接する学校間をはじめ地域関係者に情報を発信することができる。
- 3、地域の変遷を知る手がかりとなる大事な資料として、整備方法を再考する機会とする。

1. 学校及びその周辺地域の航空写真撮影の時期とそのサイズ（たて×横）

※昭和と平成の年代を分けたため、平成 60 年～64 年は 4 年の区切りとなっている。

< 別紙参照 >

< 考察 >

- ①10 年区切りで、中学校区単位で航空写真の撮影・保管の状況をみていくと、その当時の、その地域の様子が推察できる。
- ②表を縦にみていくと、各学校の航空写真から日野市全域にわたった景観を展望することができる。
- ③航空写真の多くが学校の廊下等に掲示され、いつでも、誰にでも見られるようになっているので、代表的な建物・道路や川・用水等の名称を入れると児童生徒、保護者等だけでなく、学校の訪問者にもより関心をもってみてもらえる。また、小学校 3 年生の社会科「学校のまわりのようす」の授業にも有効活用ができると考える。
- ④郷土資料館とタイアップして、学校の航空写真を一堂に集めた航空写真展を開くことも考えてみたい。

2. 日野の用水や湧水、水車に関する資料

滝合小 用水のパネル写真（35 枚）
 川の流れ（1 メートル四方）
 川の変遷（アルミ枠）

南平小 水車設計図（図面コピー 平成 17 年 3 月設置）
 日野の用水Ⅱ（平成 12 年 3 月日野七小用水の会発行）

仲田小 水車模型（木製、たてぎねが動くもの、八王子市古宮町谷正男氏作成）
用水でとれた魚（オイカワ、川ムツ、カワニナを水槽で飼う）
文献「用水を総合的な学習に生かす」（小坂克信著）
日野の用水Ⅱ（平成12年 日野七小用水の会）
日野の用水Ⅲ（平成13年 日野七小用水の会）

3. 学区域の特徴となる自然、歴史、文化に関する資料

<u>日野一小</u>	日野宿町並地図 大昌寺からみた一小から日野駅付近の写真（昭和31年）
<u>日野二小</u>	記念写真（昭和11年） 新校舎落成（昭和17年） 豊田小学校（昭和31年） 日野二小全景（昭和46年）
<u>日野四小</u>	昔の教材（CD 神尾教諭発表のもの） 明治6年頃の学校関係資料（当時の文書、原本等）
<u>平山小</u>	地層標本（旧平山小、旧平山台小） 平山陸稲の実物見本 平山のおじいさん、おばあさんから聞いた話（増賀従男著） 平山歴史マップ（平成4年3月31日、日野市生活課発行） 副読本平山（平成15年11月、平山小発行） 明治～昭和の学校の記録文章や写真資料
<u>滝合小</u>	昔の農具等を教室に展示している
<u>仲田小</u>	狸の剥製 わらの蓑・むしろ、わらじ、わらぞうり 昔の仲田地区の様子絵（山下氏画）
<u>日野一中</u>	昭和20年代の教科書10数冊（卒業生寄贈）
<u>日野四中</u>	10周年記念誌（昭和48年～57年） 20周年記念誌（昭和58年～平成4年） 30周年記念誌（創立時～平成14年） 情報誌「旭が丘タウンガイド＝旭丘の成り立ち・歴史＝」 （平成19年7月 旭が丘商工連合会発行）

●郷土資料に関する調査をととして 指導事例第1集では「これまでに先生方が授業に導入している郷土教材名」を、第2集では「各校の記念誌に収録された郷土教材」についてまとめたものを載せている。今回のものとも合わせて、是非とも、校内に郷土教材及び資料コーナーを設置し、誰でも・いつでも使えるように心がけたい。なお、こうした調査を学校間の情報交換の場として活用していただくことも調査のねらいの1つである。

IV 平成 19 年度 郷土教育推進研究のまとめ

協働研究による教材の収集・開発

- 1、学校、郷土資料館、図書館等との協働研究によって、多様な教材資料のあることを知り、授業のねらい、指導の展開に合ったより適切な資料の教材化を進めることができた。また、郷土資料館や図書館では、学校が必要とする教材資料の傾向や、授業の組み立て方を把握したことで、よりの確な助言、支援をすることができた。
- 2、指導者が多様な視点で教材研究を行ったことは、児童生徒の学習への意欲関心を高めた。さらに、進んで追究しようとする前向きな態度を引き出し、次の学習展開を主体的なものにし、知的理解の面からも鍛えることができた。
- 3、本委員会の委員は、本研究の“身近な地域の郷土教材を収集すること、開発すること”をとおして地域を知ることの楽しさや、充実感を体得してきた。このことは、地域に暮らす児童生徒理解を深め、指導者と児童生徒との信頼関係を高め、「地域の中の学校」の指導者としての資質向上を図る上で重要な柱の一つととらえた。

指導事例 第 3 集作成

- 4、指導事例では総合的な学習の時間の扱いが多い。事例「東光寺に伝わる昔話」では、社会科「わたしたちの東光寺」の発展学習として、総合的な学習の時間の「学区域探検」の学習展開を考えた年間指導計画を具体例として載せたので、郷土教材活用の参考になるものと思う。
- 5、「指導事例 第 3 集」を使いやすくするため、見たときに、第 1 集・第 2 集で取り上げた郷土教材名もわかるよう、『授業で使える「郷土日野」教材一覧』の表と、所在地の地図を用意した。まず目をとおしてもらい、郷土（地域）を知り、是非、授業の中で活用し、子どもとともに地域のよさ・発展を共有化したい。
- 6、教材への理解を広げ・深める視点から関連資料を多く取り上げ、指導者自身の裁量による選択によって、指導展開を工夫しやすくした。
- 7、百草園内ならびにその周辺にわたり、幻の真慈悲寺調査プロジェクトによる「幻の寺院」、中世の謎への挑戦が行われている。経筒や多数の瓦等が発掘されたことから「幻の真慈悲寺」は、百草の地にあったことはほぼ確実といわれている。郷土教材の新たな視点として、未だ明確な実証ができていないこうした取組を、児童生徒の学習に提供し、発掘された事物等から年代、その当時の土地の様子、建物、人々の働きや思いなどに考えをめぐらせ、調査プロジェクトからの探索新情報や体験活動に関心が向いていく指導計画、授業展開を創造していきたい。

郷土教材の電子データー化

- 8、指導事例第 1 集、2 集、3 集で扱った写真資料等の活用では、指導の目的に合わせた取捨選択・再編成ができるように、郷土教材資料電子化の一步をスタートさせた。今後は、さらに関連した内容のものを収集・編集して豊富な内容にしていきたい。市の推進する ICT 教育の中で、“郷土教材提供のあり方とその活用”を研究することが、学校に郷土教育が根づく重要なポイントとも考える。

郷土資料に関する調査

- 9、これまでの調査を含めた郷土資料に関する調査をとおして、校内に郷土教材及び資料コーナーを設置し、誰でも・いつでも見られるよう、使えるような環境づくりが、郷土教育推進上必要である。

平成19年度

郷土教育推進研究委員会

委員長 秋山譲児 日野第四中学校校長

副委員長 小杉博司 日野第一小学校校長

委員 関口佳美 日野第二小学校教諭

近藤晴子 潤徳小学校教諭

山形慎一 日野第七小学校教諭

川上朝子 日野第一中学校教諭

清水敬造 日野第四中学校教諭

金野啓史 文化スポーツ課学芸員

会田 満 学識経験者

吉野美智子 教育センター所員

小坂克信

鎌田博志

木下智美

高橋清吾

峰岸未来

猪俣恵子

鈴木 基

日野第四小学校教諭

平山小学校教諭

東光寺小学校

日野第二中学校主幹

郷土資料館学芸員

中央図書館司書

教育委員会指導主事